興奮再現。

持ち運んで楽しむか

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ￥43,800

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W（2.1W＋2.1W、EIAJ/DC）のパワー。12cmウーハー（中低音域用）と3.5cmツイーター（高音域用）採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- FM／AM2バンドラジオつき
- （クロム／ノーマル）テープセレクター採用
- フルオートストップ
- 外部スピーカー端子つき（別売り APS-80）使用
- ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子（R用、L用各1個）つき



ステレオパディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V（単1×6） AC：100V 50/60Hz カーアダプター（別売りD-70） ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12（cm） ●重さ 5.0kg（乾電池含む）

システムパディスコ



組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー（APS-80）の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー（HT-320）を接続すればレコード音楽も楽しめます。（MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要）

- 専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット￥11,800
- レコードプレヤーHT-320 別売り ￥25,800（レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ￥4,500が必要です）

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

HITACHI

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本リーグオーナー会議開かる

——財団法人に対する協力を約す——



斎藤会長

日本ハンドボールリーグ新旧加盟チームのオーナーは、財団法人日本ハンドボール協会の設立に関して協議するため、去る十月二十七日午後三時から岸記念体育館の日本スポーツマンクラブで懇談会をもち、斎藤会長ら日本協会関係者を交えて意見を交換した。

斎藤会長から各オーナーに対し財団に対する拠出のお願いをするというかたちになったが、懇談会における会長の発言を要約すると「日本ハンドボール協会を財団法人とすることは、成人式を迎えて一人前の社会人として扱って貰えるということだ。協会関係者はもとよりハンドボールのプレーヤーもこれを自覚して一層結束発展すると期待される。」

「会長をやるなら新日鉄が一流のチームをもっている他の競技団体の会長をという話もあったが、私は既製品よりも新しく開発中の新製品の方がやりがいがあると思って会長を引き受けた。私がけん引車の役目を自ら引き受けるからオーナーの方もぜひこの推進役になって貰いたい。自分は鉄屋だが鉄は熱いうちにうてといわれる……。」

「会長を引き受けるまではハンドボールは女性のやさしいスポーツぐらいに考えていたが、実際に見たらいかに激しいスポーツかよく判った。脆弱化しているといわれる少年達の体力の向上にも最適だ。企業がこのようなスポーツに金を出すのは企業の社会的責任の一つであると思う。ハンドボールが中学校の全国大会の七種目の一つに選ばれたことはまことに喜ばしい。」

「前述の財団化の趣旨からすればできるだけ広範囲の人から協力をいただいた方がよいと思うので関係者のご努力をお願いする。」

といった調子で、集まったオーナー諸氏も、基本財産がないことへの不安、財団法人化を一つの契機としてハンドボールが飛躍的に普及し国民の体力向上に大きく貢献することへの誇りと期待の程を披歴し、これを実現するためにも、各社それぞれ社内の事情はあれ、前日七千人の合理化を決定した斎藤会長が自ら協力を約した金額、ならびにこれに同調した林副会長の大同特殊鋼の協力予定額を一つのメドとして各社内を説得し、地方協会、加盟団体などの協力金と合わせて五千万円の目標達成に努力することを約束した。

そのあと日本リーグ運営についても議論が湧き

◇来年度から男子のチーム数を六にしたのはリーグにとってマイナスではないか、むしろ十チームにして二ブロックに分けた方がいいではないかという意見に対し、チーム間の実力の格差、西ドイツがブロック制から全国統一リーグにして成功した例を挙げて六チーム制を支持する意見が出て白熱した。

◇ローカルの試合は、国際試合やナショナルチームの合宿で代替させてはどうか。

など活発な意見が出て、今後年に一回はオーナー会議を開くべきであるという点で意見が一致した。

当日の出席者は次のとおり。（敬称略）

◇大同特殊鋼　林達夫（相談役）◇湧永薬品　湧永儀助（副社長）◇本田技研鈴鹿　岩井正樹（ハンドボール部長）◇日新製鋼　山崎剛（ハンドボール部長）◇大阪イーグルス　村山弘（三国丘高校教諭）◇大崎電気　川上馨（取締役営業本部長）◇三景　上坂三郎（副社長）◇三陽商会　鈴木一雄（総務部長）◇日本ビクター　池田鉄哉（監督）◇ジャスコ　安田敬一（社長室長）◇ブラザー工業　佐藤等（取締役勤労部長）◇立石電機　山越武司（東京支社総務部長）◇日立栃木　白木大二郎（総務部長）◇北国銀行　寺垣俊彦（頭取代理）◇東京重機　河辺徹夫（総務部長）◇大和銀行

（渋谷支店長）

日本ハンドボール協会関係者◇会長斎藤英四郎◇副会長林達夫◇理事長荒川清美◇総務委員長大野金一◇競技委員長安藤純光◇財務委員長島田清史◇渉外委員長境井秀三◇強化委員長渡辺慶寿◇理事（全日本実連理事長）山田稔

訃報

早川　亨氏（日体大卒・トヨタカローラ愛知ハンドボール部長）

10月10日胃ガンのため名古屋東市民病院で死去、43才。

早川氏は愛知県実業団連盟の理事であり、昨年の日韓社会人交流名古屋大会における愛知実連選抜チームの団長をつとめ、将来の愛知実連中枢人物として期待されていた。12日の告別式には愛知県協会愛知実連、そして日体大OBら多数が参列した。

「ハンドボール」53年10月号（第167号）目次

【表紙写真】

第33回長野国体・少年の部、富山（氷見）——群馬（富岡）決勝戦の一コマ……（左側）（右側）第3回日本リーグ男子・大同—三陽の一コマ

パルパル エブリボディ。



5タイプそろったホンダのパルシリーズ。乗りやすさは共通。お好きなタイプが選べます。

ロードパルの仲間たちが、たくさん走りはじめています。あの道、この道が、急にバラエティ豊かになりました。スタイルいろいろ。色とりどり。乗る人の個性と、パルの個性が…なぜかぴったり合うのです。5タイプそろったパルのうち、あなたのお気に入りはどれですか。もちろん、やさしさ・乗りやすさは、みんなおなじ。気軽にどこかへ散歩、としゃれてみたくなります。

パルはユニーク。新しい仲間も、個性たっぷり。●パルフレイ：エレガントなデザイン。乗り降りのラクなU字フレーム（車体中央）。泥ハネから足もとを守るレッグシールドなど親切設計が特長。●パルホリデー：ユニークなヒップアップ・シート。しゃれた感覚のバーハンドル。タウンで似合うバイクです。●パルディン：スリムなパイプフレーム、イキなクロームメッキ・フェンダーがナウな感じ。

ごぞんじですね。ラッタッタ。
ロードパル ——— 標準現金価格 ¥59,800

クイックスタート、とってもべんり。
ロードパル・L ——— 標準現金価格 ¥64,800

乗るかたへの心くばりがいっぱい。
パルフレイ ——— 標準現金価格 ¥75,000

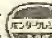
しゃれたスタイル、タウンで似合う。
パルホリデー ——— 標準現金価格 ¥79,000

ヤングの感覚、ナウなフィーリング。
パルディン ——— 標準現金価格 ¥79,000

ヘルメットをかぶろう **HONDA**

「私のパル」を持ちましょう。

パルスクール 原付免許の取り方だけでなく、正しい乗り方指導までも実施しているのが「パルスクール」の大きな特長。ていねいにご指導しています。



わずかな頭金とかんたんな手続きでお求めいただけます。お支払い方法は、ご予算にあわせていろいろ。クレジットカードはいりません。

★パルスクールとクレジットの詳細は、ホンダ販売店でどうぞ。

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593：78－1212〈代表〉

強化委員会報告

ハンドボールの運動能力テスト

— トレーニングドクター報告 —

日本体育協会が各競技団体にトレーニングドクター制度をつくって今年は、二年目にあたる。このトレーニング・ドクターは、一般にいわれている医事に関するものではなく、それぞれの競技に精通し、競技の科学的分析はもとよりその競技に科学的指導をもさせることを目的としている。

この科学的競技の分析は東独をはじめ社会主義国家で広くおこなわれており、その成果は周知の通りである。これらの方法をわが国でも考えるための一ステップである。今後臨床医と各競技の科学とを結びつけることを考えなければならないし、スポーツ医学の発展につながることとも予想される。

日本ハンドボール協会でも一早くこの制度に賛同した。日本ハンドボール協会のドクターには過去東大広田公一教授が担当なされたこともあり、ハンドボール界の科学的発展にも寄与なされてきた。正式な日体協ドクター制度の発足は先にもふれたように昭和52年であり、第一期トレーニング・ドクターを日体大石井喜八教授にお願いをし、一年間ドクター活動をおこなっていただいた。今年は、自治医科大学の阿部徳之助氏にお願をし、石井教授の基盤の上で着々とその成果をあげている。そのスタッフもハンドボールの歴史が語るごとく、広く全国の若手（40オ前後）優秀研究人を集めて、活動を始めようとしている。すなわち日体大北川勇喜助教授、関西学院大学新井節夫教授（医学博士）、愛知県立大学豊島進太郎教授と、それぞれハンドボール選手歴、指導経験の豊富な人材を集めての陣容である。その成果は充分期待できるし、石井喜八教授の期待を充分消化できるものと考える。このドクター活動が現場男女ナショナルチームと一体化するならばナショナルチーム強化により効果的指導助言ができるものである。

このドクター群が考案したハンドボールの運動能力テストをこの紙面で紹介し、広くテストの実施をお願いし、ドクターに資料を提供していただければ幸甚である。また第一図目の男子ナショナル選手のテスト結果もドクターより提出されたのでその一部をも紙面で紹介し、各属の選手達の到達目標にすることとも各属選手達の励みともなろう。

現在男子ナショナル選手達にテスト結果を知らせまたテスト結果の分析により選手各自の運動処方を実施している。

各選手がその処方にもとずいて能力的な成果が期待できる。

尚このテストは、未だ完全なものではない各種段階属の資料をまとめることによってよりハンドボールに妥当な能力テストが出来えるものであり、広く協力を求めるしだいである。また強化委員会をしては当然選手発掘にも使用することができ現在うずもれている選手達を檜舞台におしだすことにもできるし大切な要因であると考えている。

ハンドボール競技基礎
運動能力テスト

（テスト項目立案の基本的考え方）

ハンドボール競技において選手の体力運動能力テストは従来より多くの調査項目がかかげられ実施につくされてきた。その内容は身長・体重などの形態計測や筋力・走力・持久力・敏捷性・柔軟性・巧緻性・投力・跳力などの運動機能、さらに呼吸循環系の生理的機能、また社格テストなどの心理面にまで範囲は及ぶものである。このような調査測定は過去数年来ハンドボールの各階層においてなされたもので重要な資料ではあるがこれらのデータから実際のゲーム場面を想定して各々の選手に補強すべき運動内容を処方したケースが乏しいのが現状であり、また短期間でゲーム中のプレーにその効果を求める処方を考案するには必ずしも適切な方法ではないのかもしれない。私達は「現行ルールにあるハンドボールコートの広さを

もとに、走・跳・投における持久力・瞬発力・巧緻力・全身協応力はどの程度のものが要求されているのか」をテスト項目立案の基礎において、トレーニング処方の提出できる内容を検討した。なお立案の基礎になる具体的内容は以下の通りである。①他種目・外国選手と対比することが可能な前述のデータを求めることは重要なことであるので別の機会に求める必要がある。②最近のハンドボール競技の競技内容に見合った測定内容をみいだすこと、すなわちゲーム場面を想定した走跳投の能力を把握する内容、③体育館・グランドの条件にあまり左右されないで特殊な用具を必要としないこと。④若干の設定条件の変更によりナショナルチームから小中学生チームにまで応用しうるもの。⑤実施そのものがトレーニングに結びつくこと。⑥選手個人の能力（一連の動きのなかで）が数量化されて補強ポイントを指摘しうること。etc

以上の観点よりテスト項目を作成したが、個々の内容の検討、測定項目の追補を必要とすることは申すまでもない。多くの識者より良案を提出していただき、拡充していくべきものと考えている。

（追記）

○ナショナルチーム強化を目的とするトレーニングドクター群は部長・監督・コーチと意見交換を行いながら各々の選手に対してはトレーニング処方を提出する。その処方の根拠はこれらの能力テストの結果である。

○各階層のチームにとってナショナルチームレベルとの対比は興味ある点と考えられ、また中高チームなどでは練習の励みにもなろう。真摯な態度で正確な測定実施を期待する。

○試合の中での実力発揮の度合を反映する性格テスト的内容についても考慮したい。

基礎運動能力テストの内容・用具・目的・目標

テスト実施に先立って一般的な準備運動と内容にみあった主働部位の入念な準備運動を課すること

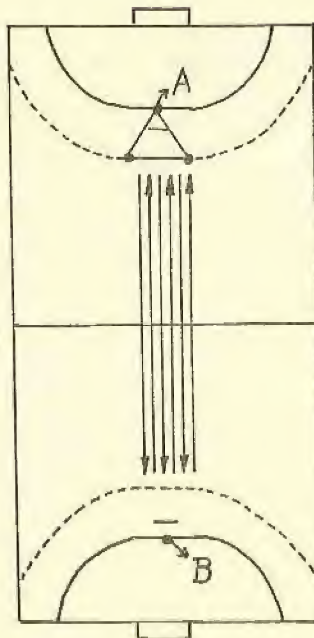
1・持久力テスト（標準コート40m）

●28mの往復ダッシュ3回とバーピーテスト、フットワークの組合わせ

●A点よりスタート（B点へダッシュ）、B点にてバーピーテスト3回連続実施後すぐA点へダッシュで戻る。A点にて三角フットワーク（左右廻り各3回すなわちA点に6回ふれる）このAB間往復を1 roundとして3 round行い、Total の時間を計測する（000秒小数点1位四捨五入）。

◎持久力テスト

Ⓐ、Ⓑはゴールエリアラインの中央



用具　ストップウォッチ、三角コーナーのマーク（ラインテープ石灰）メジャー

目的　従来の1500mなどの単調な持久走は別に測定するとして本法を考えた。相手陣内に走りこみ、ボールの受け渡し、ルーズボールの処理、ジャンプなどを想定した内容にしたいが多くの人に解かりやすいようにバーピーテストとした自陣にかえってのフットワークはディフェンスである。乱戦時（速攻・逆速攻時）の所要時間に匹敵する全身持久力テストである。

目標　90秒

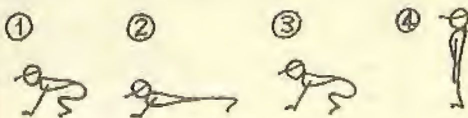
2・投力テスト（標準コート40m）

●ゴールエリアライン中央にボールを置く。被験者はフリスローライン上に位置し（対側ゴール向き）、合図で背後のボールをとり、ワンドリブルしたのち対側ゴールポストに向ってシュートする（ルールで許されるドリブル、ステップ）。

合図からボールがゴールラインを通過するまでの時間を計る。ボールの行き先はゴールインとその他に分けて記録する。5回の試技のベストスコア（○、○秒）とゴールインの数（x／5）

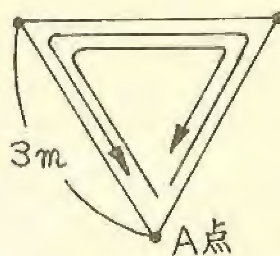
用具　ストップウォッチ（10分の1秒まで計測出来るもの）ボール

●バーピーテスト（4挙動）



4挙動を3回連続正確に実施

●三角フットワーク（1辺3m）



右廻り左廻りで交互にフットワークを行い6回A点にもどる。コーナーポイントを正確に踏むこと。前方向きならフットワークは自由とする。

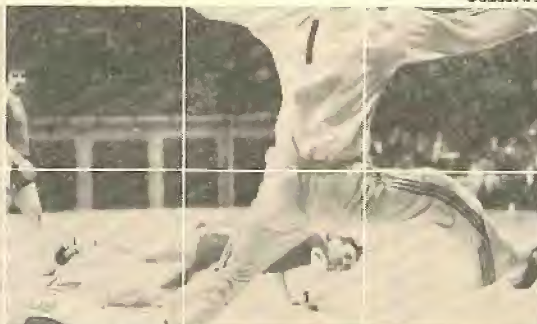
新発売「ハンドボールスペシャル」

世界を制したスペシャル・ラバーシェルソールとは!?

●adidasは世界のスポーツシューズ総合メーカーです。●adidasの3本線はオリジナルです。

ヒールカウンター

adidasの発明、ヒールカウンターは[illegible]素材でショックや危険からヒールを守り、下肢を支え、3本線とともに素晴しい一体感を形成する大切な機能を果たしています。



Napoli

3155ナポリ
(赤×白) ¥7,500
●モデル「アテネ」の色違い



Athen

3150アテネ
(青×白) ¥7,500
●ベロアレザー甲皮
●シェルソール



3本線

adidasのスポーツ力学・型形学を集大成したユニークな[illegible]「3本線」を深々と抱えこみ、これ以上ありえないと評価される足との一体感を約束します。

■ベロアレザー甲皮。つま先、かかと強化。
■スペシャル・ラバーシェルソールは、3つの吸盤とストップ、回転グリップ、各機能をもつ3ゾーンにわかれ、床を正確に、そして安定感ゆたかにとらえ、その結果、あなたは、スピードとパワーに乗った大胆なプレーを、狙い通りに決められます。また、このソール構造は、関節への衝撃からくる傷害を防ぎます。
■つま先部には、9個の通気孔があり、靴内の熱気からくる疲れを抑えました。靴舌にも通気孔を採用。
■足首、かかと、靴舌に、はきごこちを高めるパッドを採用。

Handball Special

(青×白) ¥19,000





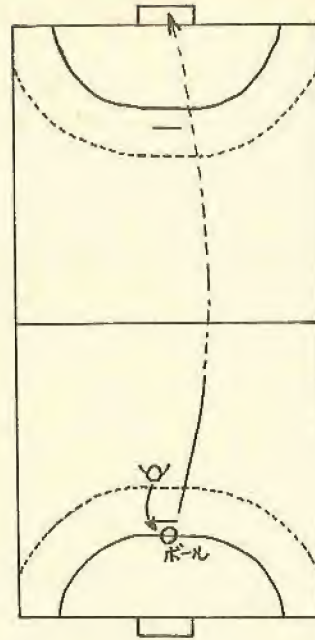
adidas®

●お求めは adidas 特約店で。



総代理店 兼松江商株式会社　発売元 兼松スポーツ用品株式会社

◎投力テスト（標準コート40ｍ）



◎全身協応力テスト

目的　遠投力はシュートスピードと深い関連を持つと思われるが、投擲角度との問題がある。ここでは準備動作としてのボールの把握とワンドリブル（パスをキャッチしたと想定）に加えて方向転換を短時間内に行った場合の遠投力とコントロールを一連の動きの中でしらべる。投力の劣るものではバウンドしながら対側ゴールラインに到達するが投射角によりそのスピードは左右される。

目標　3・5秒　5／5のゴールイン

● 3．全身協応力テスト

一辺3ｍの正方形の各コーナーにヒトが立ってゴム紐を持つゴム紐の床からの高さは男子100㎝女子80㎝とする。被験者は中央サークルの中心にボールを片手または両手で持って立つ。start の合図で前方の紐をとびこえ(a)くぐり戻る(b)つづいて後方の紐方向へ走りくぐり抜け(c)とびこえて戻る(d)、つづいて中央サークル内を通過して左方向の紐にむかってサイドステップ（クロスまたはスライド）して紐をサイドジャンプでとびこえ(e)、くぐって戻る(f)、そのままサイドステップで対側（右方向紐）に近づき、とびこえ(g)くぐり戻る(h)さらにサイドステップで中央サークルを通過し(a)へと続く。start から a—→h：start position までを1ラウンドとして3ラウンドを行うに要する時間を計測する。（〇〇秒小数点位四捨五入）

用具　ストップウォッチ、メジャー、ボール、ゴム紐（12ｍの正方形を作れる長さ）、半径50㎝の円を画くチョーク、石灰又はラインテープ。

目的　ゴム紐を前左右にとびこえる跳躍力、すばやくくぐり抜ける巧緻性・柔軟性、方向をロス少く決定する平衡性、サイドステップの巧緻性などが持久力を要求されながら含まれている。ボールを持っているため腕には常に握力が要求されている。正確に充分に跳躍、くぐり抜けをしないとゴム紐が手足に引っかかる。視覚の注意力も要求される。

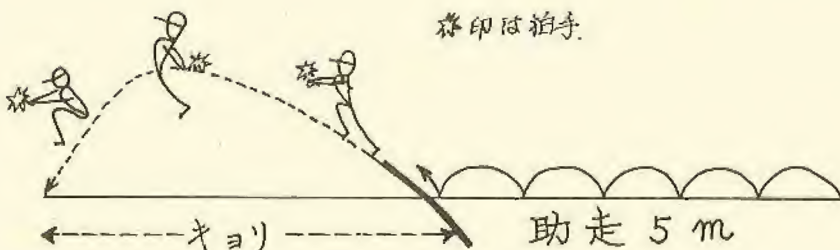
目標　20秒

注意・ボールを手から落とした時は拾ってつづける。
・ゴム紐の高さを正確にしらべる。
・方向およびとび越え、くぐり抜けは周囲の人が声をかけてやる。

4．ジャンプテスト

5ｍの助走の後ライン手前で踏み切り（片足又は両足）ジャンプし、着地するまでに体前、体後、

◎ジャンプテスト



体前と3回拍手する。踏切りランより着地点までの距離を計測する（ラインクロスの場合は参考として踏切り地点より着地点まで計測する）。○○○cmとする。

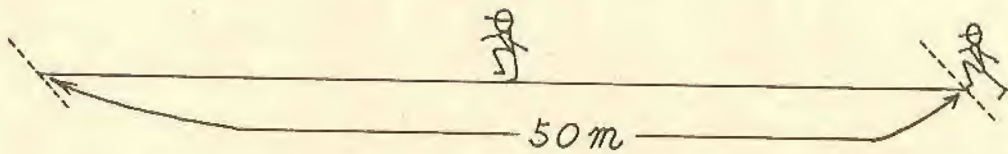
5回の試技のうちラインクロスのない3拍手の出来たベストスコアを採用する。各試技毎に拍手の出来た回数とラインクロスの有無を記録する。

用具　メジャー、ラインマーク（テープ、石灰）、砂場又はマット。

目的　高い打点でのシュートやとび込みシュートでは長い滞空時間を必要とする。この時間を測定することが困難であることと、ジャンプしてのフェイトシュート、スカイプレーなどのボールキャッチとシュート、さらに相手ディフェンスの手などをふりはらうなどの要素を取り入れるため、動作を含んだ跳躍をさせる。上肢の拍手動作を行うためには高さと距離を必要とする。ラインクロスの有無をしらべることは実際のゲームにつながる注意力であり、拍手は肩関節の柔軟性そして上肢の巧緻性をまさぐろうとするするものである。助走距離の5ｍも試合場面を想定した。

目標　450cm、確実な3回の拍子、ラインクロスなし。

◎走力



5．走力テスト

スタートの姿勢は自由な50ｍのダッシュを3本行いベストスコアをしらべる。（○○秒）

用具　ストップウォッチ、メジャー、合図（ピストル笛などを使わず、手の振りおろし、ボールの落下などで合図とする）

目的　ゲーム場面を想定すると30ｍでよいが個人差が出にくいため50ｍとした。合図はゲーム中のスタートの判断材料の一つとした。パワーの測定は別項目を考える。

目標　6.0秒

6．身長・体重・胸囲、視力（裸眼・コンタクト・眼鏡使用）など

についても参考として記録用紙に記入することが望まれる。

体力測定の結果（2頁参照）

昭和五十三年八月三十日、大同特殊鋼体育館にナショナルチームおよび、フリー参加選手と昭和五十三年九月二十一日、勝田自衛隊グラウンドにおいて、実業団ヤング選手が合宿をした折にトレーニングドクター群によって体力測定がおこなわれた。ここにその結果を報告する。

表―1はナショナルチームと、フリー参加選手、実業団ヤング選手の体力測定の平均値、標準偏差値を示したものです。

ナショナル選手と実業団、フリー参加選手と比較してみると、形態面で身長、体重、運動能力面では、持久力、投力などで、ナショナル選手のほうがよかったが、他の項目では両チームの間で差はみられなかった。フリー参加、実業団ヤング選手の中においても数名の選手はナショナル選手の平均値にあるもの、あるいはそれを上まわる選手もみられた。

それぞれの測定項目をTスコア※に換算して作図してみた。図―1は、その特徴的なものを選び出してみた。また、フリー参加、実業団ヤング選手の中でもスコア点のよいものをあげ、ナショナル選手と対比してみた。

A選手――この選手の形態的な面の身長、体重は、ナショナル選手の平均値にある。運動能力面をみると、各々の項目でよいスコアになって、全体的にバランスのとれている。特にパワーに秀れている。

B選手――この選手は、日本でも超一流の大型選手であり、運動能力では、持久力、ジャンプ力はやや不足しているようである。国際試合等ではより高いジャンプ力と、パワーが必要とされるものと考えられる。

C選手――大型選手であるが、持久力、投力、全身協応力、ジャンプ力などが不足している。

D、E、F選手は、ナショナル選手の平均スコアと比較したものであり　運動能力の面をみると、投力、持久力は、ナショナル選手と比較すると、やや不足しているが、他の項目では、よいスコアをだしている。

以上、6選手の例を示したが、個人の特性を知ると共に、今後の体力トレーニングについての問題点を探るには十分役立ち得るものといえよう。

※Tスコアについて（2頁参照）

Tスコアの意味を簡単に説明すると、何種目かの記録、例えば、50ｍ走の7.0秒と垂直跳の60cmはどちらがすぐれているかという比較はそのままでは不可能である。また何種目かの記録を総合的に検討し、誰がすぐれているかということを決定することも不可能である。こういう場合に次のような計算を行なう。種目ごとの測定Xと平均値と$\bar{X}$の偏差（$X-\bar{X}$）をその標準偏差の1/10（S/10）ではかり、これを平均値（50点）に加減してT得点とした。式は

$$Tスコア=50+\left(\frac{X-\bar{X}}{\frac{S}{10}}\right)$$

である。これによりどの種目も時間や距離や回数の測定単位がなくなり点数に換算される。

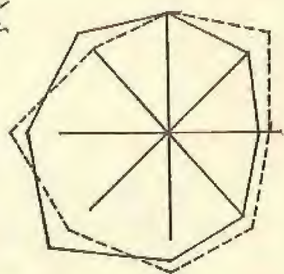
表—1　運動能力テストの結果（全日本選手・フリー参加選手，実業団ヤング選手）

		持久力 (Sec)	投力 (Sec)	全身協応力 (Sec)	ジャンプ力 (cm)	50m走 (Sec)	身長 (cm)	体重 (kg)
ナショナル選手	X̄	102.4	4.2	30.6	380.9	6.7	181.0	79.1
N＝12	S.D	2.2531	0.1920	5.2195	27.2564	0.2198	5.1940	6.3569
フリー参加選手実業団ヤング選手	X̄	112.8	4.7	30.5	379.3	6.7	175.4	67.4
N＝38	S.D	6.9209	0.3514	6.6763	25.2210	0.2529	5.4217	6.6323
モントリオール・オリンピック参加選手（日本を除く11カ国）	X̄						187.1	85.1

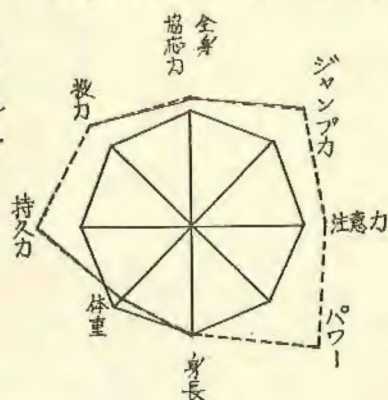
フリー選手・実業団選手のTスコアとナショナル選手との比較

ナショナル選手のTスコア

D選手

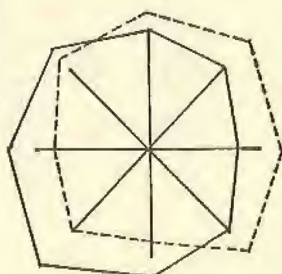


A選手

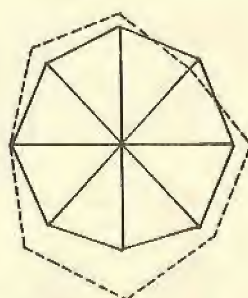


〈図1〉

E選手

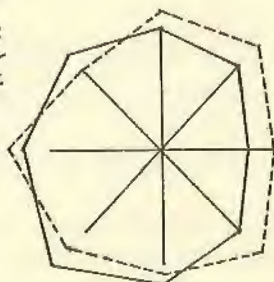


B選手

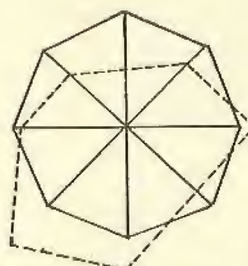


←実線はナショナル選手の平均スコアであり
点線は個人のスコアである

F選手



C選手



第33回長野国体結果報告

10/16(日)～10/20(金) 更埴市・戸倉市

成年女子一回戦

岐阜(笠松ク) 10 (5-3, 5-4) 7 滋賀(守山女OG)
大分東シニア・ク 26 (11-1, 15-3) 4 真備高OG
粉河ク(和歌山) 14 (4-2, 10-6) 8 米沢女OG・山形
古賀ク(福岡) 12 (6-1, 6-2) 3 全福井(福井)
高知ク(高知) 14 (6-2, 8-6) 8 松江ク(島根)
京都ク(京都) 14 (7-4, 7-6) 10 あすなろク・青森
東京重機(東京) 19 (8-3, 11-6) 9 桜球会(富山)
米子南OG・鳥取 7 (2-2, 5-2) 4 三本松ク(香川)
昭和学院ク・千葉 8 (4-2, 4-5) 7 全宮崎(宮崎)
日川ク(山梨) 12 (8-4, 4-6) 10 広島HFG・広島
神埼ク(佐賀) 14 (9-5, 5-4) 9 徳山ク(山口)
兵庫選抜(兵庫) 12 (7-4, 5-4) 8 全宮城(宮城)
大和銀行(大阪) 19 (9-0, 10-1) 1 新潟江南OG
新居浜ク(愛媛) 13 (6-4, 7-8) 12 生駒ク(奈良)

同二回戦

日本ビクター茨城 29 (17-2, 12-4) 6 笠松ク(岐阜)
北国銀行(石川) 19 (8-4, 11-5) 9 大分東SC・大分
ブラザー工業愛知 27 (10-1, 17-2) 3 粉河ク(和歌山)
日立栃木(栃木) 31 (17-1, 14-0) 1 古賀ク(福岡)
長崎ク(長崎) 16 (7-5, 9-5) 10 全和洋(秋田)
京都ク 11 (4-2, 7-2) 4 前橋ピジョン群馬
東京重機 20 (9-4, 11-3) 7 全沖縄(沖縄)
岩手桐花ク・岩手 15 (5-5, 10-0) 5 米子南OG
富士通長野・長野 21 (11-0, 10-6) 6 高知ク
日川ク 19 (8-2, 11-7) 9 登別OG・北海道
神埼ク 19 (10-2, 9-3) 5 清商ク(静岡)
全神奈川・神奈川 13 (8-3, 5-5) 8 国分実ク・鹿児島
東北ムネカタ福島 25 (13-1, 12-2) 3 昭和学院ク
立石電機(熊本) 18 (10-6, 8-5) 11 大和銀行
大崎電気(埼玉) 31 (14-1, 17-3) 4 新居浜クラブ
ジャスコ(三重) 20 (14-2, 6-2) 4 兵庫選抜

同三回戦

日本ビクター 24 (14-4, 10-3) 7 長崎ク
北国銀行 16 (7-0, 9-2) 2 京都ク
ブラザー工業 17 (6-5, 11-3) 8 東京重機
日立栃木 16 (8-1, 8-4) 5 岩手桐花ク
富士通長野 12 (8-4, 4-5) 8 東北ムネカタ
立石電機 23 (11-1, 12-5) 6 日川ク
大崎電気 21 (10-3, 11-1) 4 神埼ク
ジャスコ 26 (16-0, 10-0) 0 全神奈川

同四回戦

ブラザー工業 14 (8-3, 6-7) 10 大崎電気
ジャスコ 15 (7-6, 8-8) 14 日立栃木
日本ビクター 29 (14-3, 15-2) 5 富士通長野
立石電機 12 (6-4, 6-3) 7 北国銀行

同準決勝

日本ビクター 14 (7-3, 7-2) 5 立石電機
ジャスコ 17 (6-5, 6-7, 5-2) 14 ブラザー工業

同三位決定戦

立石電機 16 (7-8, 9-5) 13 ブラザー工業

同決勝

ジャスコ(三重) 10 (6-2, 4-5) 7 日本ビクター(茨城)

【戦評】

事の内を知りつくした対戦、三重は5分、9分、11分と得点、リードしゲームの主導権を握ったかに見えたが、茨城も16分、17分と追い上げた。しかし、波に波る三重は以後茨城に加点を許さず6－2で前半を終了。

後半に入り、茨城は10分過ぎ同点に追い上げたがそれ以後、三重GKの好守にはげまれ、リードを奪えず、逆に三重に速攻を許し加点されそのままタイムアップとなった。

成年男子一回戦

全福井(福井) 24 (11-8, 13-13) 21 鹿児島ク・鹿児島
湯沢Hク(秋田) 29 (14-11, 15-13) 24 氷見ク(富山)
讃岐ク(香川) 22 (11-9, 11-9) 18 有斗ク(北海道)

同二回戦

大阪イーグルス 32 (16-4, 16-7) 11 全福井
湧永薬品(広島) 38 (19-3, 19-6) 9 讃岐ク
全長野(長野) 22 (13-12, 9-8) 20 コンドルズ・茨城
大同特殊鋼・愛知 37 (16-7, 21-9) 16 湯沢Hク

同準決勝

大同特殊鋼 32 (15-2, 17-10) 12 全長野
湧永薬品 30 (12-5, 18-8) 13 大阪イーグルス

同三位決定戦

大阪イーグルス 21 (14-8, 7-4) 12 全長野

同決勝

大同特殊鋼 16 (11-5, 5-4) 9 湧永薬品

【戦評】

定評通りのナショナルチームを二分した両チーム。前半花輪、蒲生を中心とする大同と、穂積、津川を中心にした湧永。両チームとも10分まで互角の争いとなったが数少ない速攻と身長を制したセット攻撃を得点に結びつけた大同が先行しそれを湧永が追った形となった。後半に入ってからも大同はコンビネーションが崩れず、反対に湧永の攻撃は単調なものになり結局前半での差がものを言い、大同の勝利となった。しかし、この試合、まさにビッグゲームと言える素晴しい内容であった。

少年女子一回戦

山口高選(山口) 10 (5-4, 5-2) 6 兵庫選抜(兵庫)
大分京(大分) 23 (12-1, 11-2) 3 全福島(福島)
新居浜市商・愛媛 13 (8-4, 5-6) 10 富山選抜(富山)

同二回戦

小松市女 10 (2-4, 8-3) 7 山口高選
長野選抜(長野) 18 (7-1, 11-2) 3 釧路商高(北海道)
大分京高 8 (1-3, 7-4) 7 静岡高選(静岡)
新居浜市商 13 (7-6, 6-2) 8 栃木選抜(栃木)

同準決勝

小松市女 8 (4-5, 4-3) 7 長野選抜
大分東高 17 (6-3, 11-5) 8 新居浜市商

同三位決定戦

長野選抜 10 (4-4, 6-5) 9 新居浜市商

同決勝

小松市女 14 (8-4, 6-2) 6 大分東高

【戦評】
小松はスローオフ直後26秒に池田のロングシュートが右上すみに決まり好スタート、一方の大分は1分にPTを得たが小松GK竹本の好守にはばまれ得点を逸す。それ以後小松のペースとなり、速攻PT、ポストなど随所で点し、10分過近くには5—1とした。
後半、大分はスピードあふれるプレーで反撃するが、シュートミスが多く、結局小松のペースを崩すことができなかった。

少年男子一回戦

愛知選抜（愛知）	12	6—5	6—6	11	函館有斗・北海道
新居浜工（愛媛）	13	5—5	8—7	12	兵庫選抜（兵庫）
浦添高（沖縄）	24	13—10	11—8	18	全岩手（岩手）

同二回戦

氷見高（富山）	13	7—6	6—4	10	愛知選抜（愛知）
山口選抜（山口）	21	10—9	11—10	19	福岡選抜（福岡）
新居浜工	11	6—3	5—6	9	全長野
富岡高	16	9—9	7—6	15	浦添高

同準決勝

氷見高	22	10—8	12—6	14	山口選抜
富岡高	14	7—0	7—4	4	新居浜工

同三位決定戦

山口選抜	16	4—9	12—2	11	新居浜工

同決勝

氷見高	12	5—6	7—5	11	富山高

【戦評】
大型選手を揃える富岡、速いパスよりのプレーを特徴とする氷見の興味ある対戦となった。
氷見は関谷の得点により先行したがその後攻め手に欠け、富岡、寺山、永井の得によりリード。
後半に入ってからは、氷見は持前の速い攻撃で富山ディフェンスをかき乱し、着実に得点。その後完全に氷見ペースとなり、終了間ぎわ富岡寺山が一点を帰したが及ばず、ゲーム終了となり、氷見が二連勝を飾った。

25頁からのつづき

二十、備考

(イ) 参加チーム代表者会議には2各チーム2名の代表者を必ず出席させること。

(ロ) 審判会議は、1月17日午後、東京・岸記念体育館で行なう。（時間は後日連絡します）

(ハ) 決勝戦の日程はテレビ中継（詳細未定）などの都合で変更される場合もある。

(ニ) 参加選手は「健康保険証」を携行されたい。

(ホ) 競技中に負った傷害については主管者が応急処置するが、その後は各チームで行われたい。

二十一、宿泊要項

(イ) 別紙用紙により、大会申し込み書と同時に東京都ハンドボール協会に申し込むこと。
（〒一四一）品川区東五反田
二—二—七
大崎電気工業㈱内
電話〇三—四四一—二一一〇（直通）

(ロ) 宿泊費は1泊2食（朝・夕）（税・サービス込）
1人……四千六百円

(ハ) 昼食については各チーム毎に前日に直接旅館へ申し込むこと

(ニ) 上記宿泊に関し宿泊申し込みと異なる事がチームによってきた場合や(ヘ)に反した場合は、違約金を請求することがある。

(ホ) 大会申し込みと同時に宿泊申し込みしない場合は、宿泊に関する斡旋は出来ないのでご了承いただきたい。

(ヘ) 宿舎側の規定は必ず守ること

二十二、お願い

(イ) 報道関係者の取材に関しては最善の協力を行われたい。

(ロ) 今大会は、国内チャンピオンを決定する最高権威の大会であります。その意味をよく承知されて模範的態度の参加をいただきたい。

(ハ) 観客に対しても礼をつくしてほしい。

◇　◇　◇　◇

◇　◇　◇　◇

長野国体雑感

埼玉県　北井　晴次

本年度の長野国体に参加の機会を得て、あのはなやかな雰囲気の中で感じた事を述べてみたい。

今回は、成年女子が全国都道府県より、それぞれの地域予選を経ないで、直接本大会に出場するという事で、昨年の青森国体の成年男子に続いての、ハンドボール界にとっては、画期的な試みでもあった訳である。成年女子ということで、様々に杞憂されもしたが、出場チーム一県棄権という残念さはあったが、日本リーグ勢を頂点に、いろいろなチームが揃い、なかなかのものであった。

聞くところでは、日本のハンドボール人口は、未だ高校生が圧倒的に多い現状であり、なんとかして、一般人のチームの増加を早急に図る必要があるということで、いろいろな論議を重ねながら、実施に踏み切ったということである。

成年が、特に女子がハンドボールをすることは、トレーニングをかなり積んでいないと、手軽なようでありながらも、多分にハードであろうことは、容易に予想できることだと思う。

従来、各県がそれぞれの立場でいろいろな催しを企画し、成年女子のチームの参加を促し、チームの維持、増加の努力をしていることと思う。それが今回の国体のように、全国大会に必ず一県より一チームの参加が保証されるということは、それぞれのチームの活動を継続させることに対して、素晴らしい強力な導線であることにはまちがいない。

スポーツには、どうしても競技という面が不可欠で、それ抜きにして考えると、早朝マラソンの方が手軽だとか、もっとスマート？なスポーツの方が良いとかいうような考え方で、かつて、高校時代等にハンドボールをやった人でも卒業すると、なかなかハンドボールにＵターンしてくれなかったというのが現実であったかと思う。

今回の成年女子が国体に出場するまでの背景を、各県の関係者に聞くと、予選を行ったとか、あるいは長期間選抜のための練習会をもったとかで、少なくともこれまでの活動状況と比較して、成年女子がハンドボール活動をする機会が増加したという点においては、共通している。

もとよりこのような成長女子のチームが各県に皆無だったのではないが、バラツキがあり、高校生に比べても、はるかに少なかったという現状である。今年度の登録チーム数は、おそらく増加しているはずである。

今回の国体は、例年になくホットな雰囲気であり、試合の内容は拮抗したものや、実力が圧倒的にちがい、気の毒という感じのものもあり、千差万別であった。

さて、日頃地方協会のハンドボールの普及状態をなんとかより拡げようと砕心している側から、考えてみると、果して、埼玉県は、成長女子のチームが真に今回の国体にフリー参加という恩恵を受けたであろうかということである。大崎電気が国体に出場したではないかという事ではない。国体へ出場チームが決まるまでの過程において、希望チームがひしめいて、やむなく予選を行ったとか、選考会を何度も開いたとか、つまり、それまでハンドボールに背をむけていた人達を、再びひきもどしたことができたかどうかということである。

つまり、我が埼玉県においては歴然とした企業体チームがあり、それがために、成年女子がフリー出場できるという大義名分をいただいても、一般人——いわゆる一般人——にとっては、それこそ痛くもかゆくもないし、うれしくもなんともなく、よし、それでは予選をやろうなど、はるかかなたの出来事にすぎない。

おそらく全国的には、成年女子のチーム数は増加したかも知れないが、本県にとっては旧態依然・何の風波もたつ気配はない。

もちろん、我々も手をこまねいている訳ではない。県段階で、あの手、この手を試みてはいるものの、今回のような国体にフリー出場というようなとてつもない魅力的な切り札の力を借りれば、もっとゆさぶりをかけることができるに相違ない。日本のハンドボールの頂点から見れば、全国的にとにかくチーム数が増加したのであるから良いというように、日本は一つという見方、考え方も、もちろんできるであろう。しかし、一地方協会関係者にとっては、まずもって足元を固めたいの一念でしかなく、又、それが最も大切であるとも確信している。

願わくば、日本協会の英断の恩恵は、各地方協会にとって、それぞれの実情は異っていても、公平にふりかかるものでなければならない。成年女子について述べて来たが、成年男子を考えても同じことが言える。

他県の成年男女チームの様相はここ当分続くといわれるこの国体フリー参加という切り札によって本県のような特別な事情がない限り、ますますホットになることであろうが、本県にとっては、いつまでたっても企業体チームのみという、まことにうそ寒い状態が我々関係者の努力をあざ笑うかの如く続くのかと思うと、本当に残念に思うと同時に、何んとか改善して行きたいものである。

長野国体にヴェッケン氏来日す！

第33回"やまびこ国体"に突然姿を見せたIHF（国際ハンドボール連盟参事）のベルンハルト・ヴェッケンブロック氏(Bernhard Weck enbrock)をインタビューした。

彼は去る10月12日初めて東洋の地を踏んだ、大松貿易㈱（ヒンメルスポーツ用品）との代理店契約定結を機に招待されたもの。松本市の国体総合開会式を見学、翌日ハンドボール会場に現われた。過日の国際会議（アイスランド）で同席、歓待を受けた荒川理事長と再会、互いに感激の強い握手。来年四月のナショナルチーム西独遠征の件、来日予定の西独ナショナルチームの件など話ははずむのだが、カメラ片手に元気よく繰り広げられる一般女子のゲームに気持ちが走っている様子。

——国体総合開会式の印象は？、

B・Wヴェッケン氏　非常に立派なセレモニーだった。カラフルで手際よく行なわれたのには驚いたまさにスモールオリンピックだ。でもなぜシューズだけが白に統一されているの？（さすがシューズメーカーの社長で目が商売に行くようだ）でも気持ちのいいセレモニーでよかった。カイザー（天皇）とともに万余人が一つになって"キミガヨ"を歌ったときは心暖かくなった。

——ここハンドボール会場の印象は？、

B・W　ヨーロッパでは見られない光景だ。ヨーロッパでは体育館で一試合ずつ行なわれるので、喫煙とか行動に制限を受けるが、このように好きなコートへ自由に移動して喫煙もドリンクもイーティングも自由で全く結構。それに空気がいいし…。

——ところでゲームの印象は？、

B・W　ベリーグッドだ。特に速い動きには感心する。ただ、観る人は得点の取り会いでおもしろいだろうが、プレーヤーは（チーム）もっと"勝つ"ことに執着したら？、簡単にボールを離しすぎる。そして全くクリアーなプレーだ。ヨーロッパでは考えられない。激しくぶつかり合って"勝つ"ことにもっと意欲的だ。もっとも決勝戦に近づけば日本でもそうなって来るのだろうが……。

——話題を変えて、過日の女子ナショナルチームの敗戦についてどう思いますか？

B・W　われわれは当然日本が勝つものと思っていた。大変驚いている。ヨーロッパでも韓国が勝つなんて思っていなかったので、全く韓国の資料がない。韓国はどんなチーム？（逆に質問が返ってきた）もちろんチェコの世界選手権を見学に行くんだろうね？、とにかく日本の敗戦はヨーロッパで話題の中心になっている。

——男子については？

B・W　ミュンヘンもモントリオールも日本の戦いぶりを観たが、特にモントリオールでは二試合とも勝てるところまでいっていたように思う。今年のコペンハーゲンでも実にいいプレーを見せた。もう少しのところで勝てない。国際的にはレベルは高いと思う。もっと国際交流が必要だ。私の思うには日本は二年に一度世界を経験してあとはブランクだ。だからこのままでは、いつまで経っても二年遅れだ。というのは、オリンピックと世界選手権が間になるので、二年に一度世界の強豪と顔を合わすだけだ。西独は今年のチャンピオンになるのに年間50試合の国際試合を消化した。

——日本とヨーロッパの地域差があるし、いろんな面で不利がある経済的な面も……。

B・W　ノー、それは違う。どこの国も経済的には苦しい。むしろ日本は世界で一、二を争う金持ちではないか。今日は1ドル184円だったように思うよ。遠征出来なければ日本へ招けばいい。あるいわアジア選手権をやればいい。IHF理事のミスター、ワタナベも日本にいることだし、交流はどんどん出来るはずだ。ミスター・アラカワもアイスランドの会議で交流の話をしていた。私も微力ながら力になれますよ。

——ところでモスクワ五輪ではどこが強そうですか？

B・W　やはり過日の世界選手権の上位チームでしょう。それとどんどん力をつけている国では特にスペイン、スイスですね。

——ロスアンゼルス五輪のハンドボール競技は？

B・W　もちろん行なわれることに決定してます。だが、チーム数については、モスクワ五輪の時の国際会議で決定するはずです。恐らくモスクワと同じではないでしょうか。

——今後日本が世界の仲間入りするにはどうしたらいいでしょうか？

B・W　すでに世界の仲間入りでしょうが……。先にも言ったように出来るだけ多く国際試合をすることです。日本のことはさておいて参考までに、西独では世界選手権の前に、三週間の強化練習を三度やった。その内容は、たとえば30分、30分、30分を休みなしで試合形式の練習と繰り返した。ステンツェル監督の厳しさに選手たちがよく絶えたと思う。それとちょっと気になることは、日本の選手は喫煙すぎるようだ。国内事情（たとえば、ヨーロッパではクラブ組織、日本では、企業チーム）が違うようだが、スポーツマンは喫煙すべきでないと思う。

とにかく日本が強くなって世界の上位で争ってもらいたい。こんないい雰囲気でハンドボール大会が行なわれているんだから……。私は出来れば青年の"国体"も観戦に日本へ来たい。そして何度も言うようですが、どんどん西独へ来て下さい。

この間彼は荒川理事長との話し合いもあった。そして会場で中井花輪、津川、福井ら大同、ワクナガの選手たちとコペンハーゲンからの再会を喜び合った。

会場には異色（？）のB・W氏は子供たちに大もて、行く先々で輪が出来た。彼は強行軍の日程のためゲームに後ろ髪を引かれる思いで会場を後にした。私はその後姿をじっと見送りながら、日本のチームもこれから先どんどん西独を中心とする欧州に遠征し、新しいものを持ち帰り、更に国内レベルアップを図るべく日が決して遠いものであってはならないと感じた。

編集委員　深江幸次郎





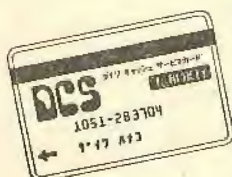








こんなとき便利な ダイワ キャッシュカード。



日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーや ☑ マークのコーナーでは、平日午後5時土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや ☑ マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座（普通預金）をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

☑ マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。



第三回 日本ハンドボールリーグ 後期結果報告 ～その1～

前期において男子、大同特殊鋼女子日本ビクターの首位で折り返した後期に入り、男子はやはり大同と前回優勝の湧永そして本田との優勝争いに焦点がしぼられ、また次回（第4回）よりチーム数が6チームに削減されることなどから、三位以下、六位までの入賞争いが前期にも増して日新イーグルス、三景、大崎、三陽の各チームで熱の入ったゲームが展開されることは大いに期待できるであろう一方女子は、ビクターが三年連続の優勝を目標に臨んで来るが、後に続くジャスコ、立石、日立、ブラザーら各チームがどのようにそれを阻止するのか、これもまた興味深いものになってくるし、他の大崎、北国、ムネカタの各チームにしても、後期の活躍が大いに期待できよう。男女いずれにしても第3回大会はこれまでにない充実した内容味のあるものとなってくるであろう。

第一週

■第一日 9／9（土） 東京体育館
観客 一、二〇〇

日本ビクター 36 (16 20 — 1 5) 6 東北ムネカタ

後期大会の開幕を意識し過ぎてか、立ち上がりから固さの目立つムネカタが前期一位のビクターとの対戦に臨んだが、主砲清水の活躍は不発に終わり大敗を期した。一方ビクターは王者の貫禄を見せこの試合リーグ始まって以来の最多得点を上げ圧勝した。

【ムネ】（審・千野 斉藤）

	選手	S	得
GK	熱海	0	0
GK	海村	0	0
FP	本郷	0	0
FP	近内	0	0
FP	鈴木	1	0
FP	清水	8	0
FP	石山	1	0
FP	加藤	9	3
FP	米野	15	0
FP	落合	6	2
FP	水野	1	1
FP	物井	0	0
		41	6

【ビク】

	選手	得	S
GK	鈴木	0	0
GK	塙	0	0
FP	加藤	7	11
FP	穂積	5	7
FP	小鳥	7	8
FP	村上	0	3
FP	深谷	4	6
FP	伊藤	7	9
FP	岩井	2	3
FP	寺村	2	2
FP	高橋	1	2
FP	池田	1	2
		36	54

【PT】ビク 加藤1 池田1
ムネ 落合1

大同特殊鋼 35 (16 19 — 7 9) 16 三陽商会

全般を通してそつの無いプレー展開を見せた大同の貫禄勝ちであった。一方手勢の薄い三陽商会も若干の関、坪子らが良く健闘したが及ばなかった。

【三陽】（審・大塚 佐分）

	選手	S	得
GK	吉近	0	0
GK	田村	0	0
FP	近森	2	1
FP	関	16	4
FP	山辺	0	0
FP	坪子	6	3
FP	稲木	0	0
FP	石原	2	0
FP	梅尾	5	1
FP	鵜沢	3	2
FP	三上	5	2
FP	金子	11	3
		50	16

【大同】

	選手	得	S
GK	柳川清	0	0
GK	大園	0	0
FP	藤中	0	0
FP	中井	8	10
FP	松原	2	3
FP	花輪	0	0
FP	柳川実	6	10
FP	大原	7	10
FP	中木	0	1
FP	蒲生	11	14
FP	東谷	0	0
FP	浦田	1	1
		35	49

【PT】大同 蒲生1 三陽 関1 金子1

三景 18 (7 11 — 12 5) 17 大崎電気

後期に期待を賭ける両チームの対戦だけに終盤で一点を争う好ゲームとなり観客を大いに湧かせた前半の劣勢から後半に入り徐々に追い上げて行った大崎ではあったが最後のツメが無かった。そして三景とは対称的に大崎は後期に賭ける大事な一戦を落し苦しいスタートを切った。

【大崎】

	選手	S	得
GK	岡部	0	0
GK	原田	0	0
FP	斉藤	11	7
FP	坂口	0	0
FP	大熊	7	2
FP	新田	0	0
FP	長野	6	1
FP	椿原	9	5
FP	佐伯	2	1
FP	橋本	3	1
FP	松岡	0	0
FP	金井	0	0
		38	17

【三景】

	選手	得	S
GK	小林	0	0
GK	野田	0	0
GK	佐々木	4	4
GK	内藤	0	0
GK	鈴木	7	14
GK	山村	1	4
GK	川島	0	3
GK	島中	0	1
GK	村田	2	7
GK	中馬	2	2
GK	辻野	0	0
GK	西窪	2	6
		18	41

【PT】三景 佐々木4 鈴木3 村田1
大崎 斉藤5 椿原2

■第二日 9／10 東京体育館
観客 一、五〇〇

三陽商会 21 (10 11 — 9 8) 17 三景

前期最終日の対戦では引き分けに終わった両チーム共に地元の声援を受けて緊迫したゲームを展開したが、三陽はエース関と成長著しい金子の活躍に加え、GK田村の好リードにより終始三景をリードし、快勝した。

【三景】

	選手	S	得
GK	小林	0	0
GK	野田	0	0
FP	佐々木	8	2
FP	内藤	0	0
FP	鈴木	11	5
FP	山村	4	0
FP	川島	3	2
FP	島中	1	0
FP	地主園	1	1
FP	村田	15	7
FP	中馬	2	0
FP	西窪	0	0
		45	17

【三陽】

	選手	得	S
GK	吉近	0	0
GK	田村	0	0
FP	近森	4	10
FP	関	5	12
FP	山辺	0	0
FP	坪子	2	6
FP	稲木	0	0
FP	石原	1	4
FP	梅尾	2	9
FP	鵜沢	1	4
FP	三上	2	3
FP	金子	4	9
		21	57

【PT】

立石電機 17 (10 7 — 5 6) 11 大崎電気

前期熊本大会では一点差の好ゲームを展開し地元ファンを大いに湧かせ、その両者揃って4勝3敗で後期に臨んでの顔合わせであったが、エース紀野を欠いた立石電機が若手トリオのきびきびしたプレーで追いすがる大崎を破った。

またこの試合、大崎西選手の長打が目立った。

【大崎】

	選手	S	得
GK	中島	0	0
GK	藤村	0	0
FP	小笠原	0	0
FP	西	17	7
FP	陽田	1	0
FP	内野	3	0
FP	大場	11	1
FP	佐々木	0	0
FP	石井	5	2
FP	徳渕	2	1
FP	江島	0	0
FP	宮嶋	0	0
		39	11

【立石】

	選手	得	S
GK	丸山	0	0
GK	井村	0	0
FP	姫野	1	2
FP	桑野	2	8
FP	平木	3	10
FP	林	3	3
FP	羽立	4	5
FP	橋ノ口	3	7
FP	福永	0	0
FP	藪田	1	3
FP	宮久山	0	0
FP	山下	0	0
		17	38

【PT】立石 平下2 藪田1
大崎 西1

湧永薬品 31 (18 13 — 8 6) 14 大崎電気

この試合久々のTV中継とあってか立ち上がり両者共に固さが目立ったが、湧永が徐々に自己のペースを取り戻し、また豊富なメンバーを揃え次々に駒を繰り出して順当勝ちを修めた。大崎電気にパスミスが目立ったが、斉藤選手の変則シュートが会場を湧かせた。

得	S	【湧永】		【大崎】	S	得
0	0	今井	GK	岡部	0	0
0	0	福井	GK	原田	0	0
8	9	津川	FP	斉藤	12	4
0	1	大野	FP	坂口	0	0
4	8	徳積	FP	大熊	11	3
1	3	藤本	FP	新田	0	0
2	3	高橋	FP	長野	14	2
5	9	戸田	FP	椿原	4	0
0	2	松本	FP	佐伯	4	3
5	8	山本	FP	橋本	2	2
5	7	生駒	FP	松岡	2	0
1	4	池ノ上	FP	金井	2	0
3146						5114

【PT】湧永 高橋1 山木1

同 9/10 観客 八〇〇 柏市民体育館

日新、三強の一角を崩す！

日新製鋼 25（13—8、12—13）21 本田技研鈴鹿

前期大いに旋風を巻き起こした日新が遂に3強の一角を崩した非常に内容味豊かなゲームであった後半に入っての日新の攻撃は、脇若を中心に、徳田、吹上、下茂らの着実なプレーにより本田を圧倒快勝した。

得	S	【日新】		【本田】	S	得
0	0	三田	GK	柴田	0	0
0	0	隅本	GK	細野	0	0
1	4	泉	FP	田上	7	5
5	6	徳用	FP	佐藤	16	6
4	11	大庭	FP	嘉井	9	4
5	6	吹上	FP	豊岡	2	0
0	0	渕本	FP	永本	0	0
4	6	脇若	FP	矢野	5	3
0	0	森	FP	西田	2	1
6	13	下茂	FP	松永	0	0
0	0	湯巾	FP	高橋	1	1
0	0	洞ヶ瀬	FP	佐々木	2	1
25 46						4421

【PT】日新 下茂3 本田 佐藤1

ジャスコ 16（11—9、5—6）15 北国銀行

今回からリーグ入りし小松市女高のOGで固める成長著しい北国は、立ち上がりからエース山際を中心にジャスコ陣内を攻め1点リードで後半に入るなど、大いに観客を湧かせた。

後半に入ってからも北国、山際のステップシュートが冴え、一進一退の好ゲームが展開されたが、終盤ジャスコは河田PT得点により勝機をものにし、辛くも北国を振り切った。

得	S	【ジャ】		【北国】	S	得
0	0	久保	GK	酒谷	0	0
0	0	山本	GK	高橋	0	0
3	9	松下	FP	庄田	2	1
0	0	林	FP	中山	5	3
2	3	金田	FP	本田	3	1
3	9	鈴木	FP	木戸	0	0
5	9	河田	FP	干歩	10	2
0	0	笠	FP	北村	0	0
1	3	若田	FP	山際	12	7
1	2	横山	FP	西出	0	0
1	1	辻本	FP	坂	0	0
0	0	平田	FP	八木	7	1
1636						3915

【PT】ジャ 河田1 北国 山際2

大同特殊鋼 28（14—7、14—10）17 大阪イーグルス

後期に非常な熱意で臨むイーグルスは立ち上がりから大同エース蒲生に対しマンツーマンを敷きゲームに臨み、前半は一進一退の激しいゲーム展開となったが、やはり余裕のある大同がリードを奪い後半にいる。

後半に入っては、大同はイーグルスのミスから次々に持ち前の速攻で加点、追いすがるイーグルスを振り切り快勝した。

なおこの試合マンツーされながらも大同蒲生選手はPTを含む10得点を上げ、日本のエース蒲生の貫禄を見せた。

得	S	【大同】		【イグ】	S	得
0	0	柳川清	GK	広川	0	0
0	0	大園	GK	本田	0	0
0	0	藤巾	FP	高橋	6	0
6	12	中井	FP	勝本	4	0
2	8	松原	FP	足羽	2	0
0	0	花輪	FP	大西	6	4
2	4	柳川実	FP	橋本	0	0
5	12	木原	FP	河原崎	8	1
1	2	中本	FP	早川	2	0
10	15	蒲生	FP	福井	22	8
1	1	清田	FP	三谷	5	3
1	1	小野	FP	下野	2	1
2855						5717

【PT】大同 蒲生5

第二週

■第一日 9/15 観客 一、〇〇〇 大阪中央体育館

プラザー工業 18（6—3、12—3）6 東北ムネカタ

この試合総合力に勝るプラザーの圧勝であった。

ムネカタは清水に続くプレーが無く、風プレーが目立った。一方プラザーは速攻を中心に速いゲーム展開でムネカタ陣営を崩し前半で勝敗を決した。

得	S	【プエ】		【ムネ】	S	得
0	0	山本	GK	熱海	0	0
0	0	尾比久	GK	海村	0	0
2	3	岩井	FP	木郷	0	0
0	0	山中	FP	近内	1	0
2	7	則武	FP	清水	12	3
1	2	岡山	FP	鈴木	2	1
0	0	楠石	FP	石山	5	2
3	4	宮平	FP	加藤	0	0
3	6	植田	FP	米野	8	0
2	5	山村	FP	落合	1	0
1	1	木下	FP	水野	2	1
4	7	巾川	FP	物井	1	0
1835						326

【PT】プエ 中川1 ムネ石田1

立石電機 13（10—4、3—6）10 日立栃木

前半日立は自らのペースで試合を進め、立石の攻撃を固いディフェンスで守り6—3とリードして後半を迎えた。

後半に入ってからも、日立は前半の優勢から中盤まで有利に試合を進めたが、立石の執念がこの辺りからジワジワと日立に肉迫、18分速攻から得たPTを平山が決め9—9の同点としゲームは一変、立石のペースとなりそのままの勢いで日立を振り切った。立石は若い力で見事な逆転劇を演じた好ゲームであった。

イーグルス日新を振り切る！

得	S	【立石】		【日立】	S	得
0	0	丸山	GK	寺沢	0	0
0	0	井村	GK	斉藤	0	0
0	2	姫野	FP	山井	5	3
6	11	平下	FP	島田	0	0
2	8	桑原	FP	吉田	1	0
0	0	紀野	FP	荒木	8	3
0	1	林	FP	大輪	0	0
2	2	羽立	FP	小根沢	0	0
2	8	橋ノ口	FP	箕輪	0	0
0	1	福永	FP	水上	13	3
1	1	藪田	FP	毛塚	4	1
0	0	喜久山	FP	大高	0	0
13	34				31	10

【PT】立石 平下4 藪田1
日立 荒木2

大阪イーグルス 20（10―8、10―9）17 日新製鋼呉

イーグルスの老巧さが若い日新を振り切ったゲームであった。

前半3―0とリードした日新であったが、イーグルス、エース福井の巧シュートによりあっさりと3―3とされ、逆10―9でイーグルス後半へ折り返した。

後半、中盤まで一進一退の攻防が続いたが、イーグルスは大西の速攻により3連続点を挙げ、17―15と勝負を決定的なものにした。

得	S	【イグ】		【日新】	S	得
0	0	広川	GK	三山	0	0
0	0	本田	GK	高本	0	0
1	2	高橋	FP	泉	9	2
0	0	足羽	FP	徳田	4	3
4	5	大西	FP	大庭	9	3
1	4	橋本	FP	吹上	6	4
0	3	河原崎	FP	関本	0	0
4	9	早川	FP	脇若	0	0
10	20	福井	FP	森	1	0
0	0	北居	FP	下茂	14	5
0	0	三谷	FP	湯中	0	0
0	0	勝本	FP	洞ケ瀬	0	0
20	43				43	17

【PT】イグ福井1 日新下茂1

■第二日 9/16（土） 和歌山県立体育館
観客 八〇〇

ビクター、ジャスコに苦敗！

ジャスコ 13（5―2、8―10）12 日本ビクター

前半立ち上がりジャスコは二点先取、好調なすべり出しではあったが、中盤よりディフェンスに乱れが出て、そこを巧くビクターにつかれリードを許した。

後半に入りビクターは前半の優勢が逆に作用し、雑な攻撃が目立ち、ジャスコの速攻の材料となってしまった。そして終了二分前ジャスコ鈴木がミドルを決め、そのまま勝ち越し点となった。

ビクターにとっては大事な一勝を逸したゲームであったといえる。

得	S	【ジャ】		【ビク】	S	得
0	0	久保	GK	鈴木	0	0
0	0	山本	GK	塙	0	0
0	1	平田	FP	加藤	9	2
6	12	松下	FP	穂積	10	2
0	0	林	FP	小島	3	1
1	3	金田	FP	染谷	5	2
1	6	鈴木	FP	伊藤	5	3
1	4	河田	FP	岩城	0	0
2	2	若田	FP	寺村	0	0
2	3	横山	FP	高橋	0	0
0	0	宮崎	FP	村上	0	0
0	0	山本	FP	池田	4	2
13	31				36	12

【PT】ジャ 松下3 ビク 加藤1 池田2

ブラザー工業 13（9―3、4―5）8 北国銀行

前半北国は千歩のミドルシュート、ブラザーは主将中川の好リードで互角の試合を展開し、仲逆著しい北国のリードで後半を向えた。

後半に入っては、開始早々から先行したブラザーがそのまま波に乗り、北国の攻撃を容易にかわしてそのまま逃げ切った。

得	S	【ブエ】		【北国】	S	得
0	0	山本	GK	酒谷	0	0
0	0	尾比久	GK	高橋	0	0
0	1	岩井	FP	庄田	3	1
1	11	山中	FP	中山	1	0
0	5	則武	FP	本田	3	1
4	9	宮平	FP	木戸	0	0
1	2	植田	FP	千歩	10	3
2	2	山村	FP	北村	0	0
0	0	木下	FP	山際	9	2
5	6	中川	FP	西出	0	0
0	0	宮本	FP	坂	0	0
0	0	岡山	FP	八木	4	1
13	36				30	8

【PT】ブエ 山村2

大阪イーグルス 22（13―10、9―7）17 三陽商会

前半立ち上がり三陽にリードを許したイーグルスではあったが、徐々に追い上げ15分過ぎには6―6の同点から、その後は巧みなゲーム展開により三陽を圧倒した。

また三陽のエース関をマンツーして動きを封じた事も、イーグルの勝因の一つにあげられる。

審	S	【イグ】		【三陽】	S	得
0	0	広川	GK	吉近	0	0
0	0	本田	GK	山村	0	0
3	4	高橋	FP	近藤	3	0
1	2	足羽	FP	関	5	3
5	5	大西	FP	山辺	0	0
2	5	橋本	FP	坪子	6	3
2	5	河原崎	FP	石原	4	3
1	7	早川	FP	梅屋	7	2
8	17	福井	FP	鵜沢	3	2
0	0	北居	FP	三上	6	3
0	1	三谷	FP	金子	4	1
0	1	勝本	FP	小倉	0	0
22	47				38	17

【PT】イグ 福井2 三陽 関1

■第三日 9/17（日） 京都府立体育館
観客 一、五〇〇

日本ビクター 14（6―4、8―5）9 立石電機

前半立ち上がりから両者共に当りの激しいディフェンスで互角に進めて行ったが、12分過ぎビクターは立石・橋ノ口の退場につけこみ、すかさず加藤のインターセプトからの速攻が決まり、その後3点を連取し8―5とした。

後半は前半に比べると両チーム共にやや動きが悪くなったが、着実に得点を重ねて行ったビクターが、立石をそのまま振り切った。

得	S	【ビク】		【立石】	S	得
0	0	鈴木	GK	丸山	0	0
0	0	塙	GK	井村	0	0
7	11	加藤	FP	姫野	1	0
2	5	穂積	FP	桑原	3	0
3	3	小島	FP	平下	8	4
1	3	染谷	FP	紀野	0	0
1	1	伊藤	FP	林	1	0
0	1	岩城	FP	羽立	2	0
0	0	寺村	FP	橋ノ口	4	3
0	0	高橋	FP	福永	2	1
0	0	村上	FP	藪田	2	1
0	3	池田	FP	喜久山	0	0
14	27				23	9

【PT】ビク 加藤2 立石 平下1

湧永薬品 19（13 6―7 7）14 本田技研鈴鹿

前半湧永は本田の激しい当りのディフェンスにペースをつかむ事が出来ず本田のペースで試合が展開。後半開始直後同点に追いついた湧永はようやく本来の調子を取り戻し、持ち前の速攻で着々と加点して行った。本田もエース佐藤のロングミュート等で追いすがるが、波に乗った湧永を押える事は出来なかった。

【本田】		S	得
GK	柴田	0	0
GK	細野	0	0
FP	田上	8	5
FP	佐藤	13	4
FP	喜井	5	2
FP	豊岡	3	1
FP	水木	0	0
FP	矢野	2	1
FP	西山	0	0
FP	松永	0	0
FP	高橋	0	0
FP	佐々木	3	1
		34	14

【湧永】		S	得
GK	今井	0	0
GK	福井	0	0
FP	津川	3	1
FP	木野	0	0
FP	穂積	6	2
FP	藤本	0	0
FP	高橋	0	0
FP	戸田	5	3
FP	松本	5	2
FP	山本	15	9
FP	生駒	5	2
FP	池ノ上	0	0
		39	19

【PT】湧永　山本3　本田　上3　佐藤2

同　9／17　神戸市立中央体育館

観客　一、一〇〇

大同特殊 35（19 16―9 8）17 日新製鋼呉

総合力に優る大同の圧勝であった。日新も試合を捨てずによく頑張ったが、もう少し元気が欲しかった。点差こそ離れてしまったが大同チームの個々の選手のそつのないプレーに観客は魅りょうさせられた。

【日新】		S	得
GK	三田	0	0
GK	筒本	0	0
FP	泉	2	1
FP	徳田	8	4
FP	大庭	9	3
FP	吹上	0	0
FP	関本	0	0
FP	脇若	10	3
FP	森	3	1
FP	下茂	9	5
FP	湯中	1	0
FP	洞ヶ瀬	0	0
		42	17

【大同】		S	得
GK	柳川清	0	0
GK	大園	0	0
FP	藤中	0	0
FP	中井	7	2
FP	松原	1	0
FP	花輪	0	0
FP	柳川実	5	3
FP	大原	15	11
FP	中本	0	0
FP	蒲生	19	15
FP	浦田	3	3
FP	小野	1	1
		51	35

【PT】大同　蒲生4　日新　下茂1

ジャスコ、日立引き分けに終わる

ジャスコ 11（5 6―6 5）11 日立栃木

両チーム共に活発な動きからスピーディーなゲーム展開を見せてくれた。ジャスコは後半松下、河田を中心に点差を拡げようとしたが、一方の日立もよく粘り、そして終了15秒前4番吉田のミドルシュートを決まり、圧感的な幕切れとなった。追いつ追われつの最後の最後まで油断の許されない観子側にとっても久々の好ゲームであった。

【日立】		S	得
GK	寺沢	0	0
GK	斉藤	0	0
FP	山井	0	0
FP	島田	2	2
FP	吉田	13	4
FP	荒木	4	1
FP	小根沢	0	0
FP	大輪	2	2
FP	箕輪	5	1
FP	水上	7	1
FP	斉藤	0	0
FP	毛塚	3	0
		36	11

【ジャ】		S	得
GK	久保	0	0
GK	山本	0	0
FP	平田	0	0
FP	松下	14	6
FP	林	0	0
FP	金田	1	0
FP	鈴木	2	0
FP	河田	8	2
FP	若田	4	1
FP	横山	3	2
FP	宮崎	0	0
FP	山本	0	0
		32	11

【PT】ジャ　松下4

第三週

■第一日

9／23（土）湯沢雄勝圏民体育館

観客　一、二〇〇

大同特殊 28（15 13―11 6）17 三景

前半10分、後半10分と三景は互角以上の熱戦を見せ観客を大いに湧かせたが、前半のノーマークでのミスが非常な痛手となり、一方大同は各選手の調和のとれたゲーム展開から着実に点差を拡げて行った。

三景GK小林の随所で見せたファインプレーは、点差こそ開いたもののゲーム内容をより一層おもしろくさせる要因となった。

【三景】		S	得
GK	小林	0	0
GK	野田	0	0
FP	佐々木	10	1
FP	内藤	0	0
FP	鈴木	5	2
FP	山村	7	3
FP	川島	1	1
FP	島中	4	2
FP	地主欄	0	0
FP	村田	10	2
FP	中馬	8	6
FP	西窪	0	0
		45	17

【大同】		S	得
GK	柳川清	0	0
GK	大園	0	0
FP	藤中	0	0
FP	中井	9	3
FP	松原	4	4
FP	花輪	5	3
FP	柳川実	2	1
FP	大原	8	6
FP	中本	2	0
FP	蒲生	19	11
FP	浦田	0	0
FP	小野	0	0
		49	28

【PT】大同　蒲生1

日立栃木 19（7 12―5 1）6 東北ムネカタ

試合開始より日立はファイト溢れるプレーで、終始ムネカタを圧倒、ムネカタはエース清水がシュートの大半を打つが、日立のツメの良いディフェンスにはばまれ、最後までそれを崩すことができなかった。日立エース島田の気力あるプレーは賞賛されよう。

【ムネ】		S	得
GK	熱海	0	0
GK	海村	0	0
FP	本郷	0	0
FP	近内	2	1
FP	鈴木	1	0
FP	清水	8	2
FP	石田	18	0
FP	加藤	0	0
FP	米野	2	2
FP	落合	13	1
FP	水野	1	0
FP	物井	0	0
		37	6

【日立】		S	得
GK	寺沢	0	0
GK	斉藤	0	0
FP	山井	4	2
FP	島田	8	4
FP	吉田	5	1
FP	荒木	5	4
FP	小根沢	0	0
FP	大輪	6	1
FP	山戸	0	0
FP	箕輪	4	2
FP	水上	5	3
FP	毛塚	2	2
		39	19

【PT】日立　荒木1　ムネ　落合1

■第二日

9／24（日）山形県営体育館

観客　八〇〇

日本ビクター 21（8 13―5 1）6 大崎電気

日本ビクターはゲーム開始早々持ち前の起動力に加え、固いディフェンスにより大崎の攻撃をはね返した。後半に入ってからはやや元気を取り戻した大崎だが、前半の大差を縮める事が出来ず、ビクターの圧勝を辞してしまった。

この試合大崎の地元出身者、大場に今一つ元気さがなかったことは地元ファンをガッカリさせた様

に思えた。

大崎	S	得		ピク	S	得
中島	0	0	GK	鈴木	0	0
藤村	0	0	GK	塙	0	0
西	4	1	FP	加藤	5	3
鴇田	2	1	FP	穂積	8	2
内野	2	0	FP	小島	4	3
大場	13	1	FP	奥谷	6	4
佐々木	0	0	FP	伊藤	8	6
石井	12	2	FP	岩城	2	1
徳渕	1	1	FP	寺村	0	0
江島	3	0	FP	高橋	0	0
宮嶋	0	0	FP	村上	0	0
根間	0	0	FP	池田	4	2
	37	6			37	21

【PT】ピク　池田2　大崎　西1

本田技研鈴鹿 23（13－10, 10－9）19 大崎電気

前女子試合に続き男女で山形に乗り込み何んとか一死報いたい大崎男子であったが、結果後半の追い上げもむなしく三勝目を上げることができなかった。

両チーム共に本田、柴田、大崎岡部とGK陣が随所でファインプレーを見せてはくれたが、シュートにも一工夫欲しく、特に大崎はノーマークでのミスが目立った。

大崎	S	得		本田	S	得
岡部	0	0	GK	柴山	0	0
原田	0	0	GK	細野	0	0
斉藤	8	4	FP	田上	9	6
坂口	1	0	FP	佐藤	12	5
大熊	17	7	FP	喜井	8	4
新田	0	0	FP	豊岡	1	0
長野	12	4	FP	水本	1	0
椿原	0	0	FP	矢野	6	3
佐伯	5	2	FP	西田	1	0
橋本	2	1	FP	松永	0	0
松岡	1	1	FP	高橋	5	3
金井	0	0	FP	佐々木	4	2
	46	19			47	23

【PT】大崎　斉藤2

プレス・ルーム <13>

小　山　敏　昭
——共同通信運動部—

全日本女子の再建に期待す

　女子世界選手権のアジア予選で日本は韓国に敗れた。このニュースはハンドボール関係者に大変なショックを与えた。それまでアジアでは無敵の王者として君臨し、モントリオール・オリンピックでは三大陸の代表として5位になるほどの力を持っていた日本が敗退したのだから、その落胆ぶりは大変なものだったろう。

　だが私がもっとビックリしたのは、敗退後の全日本チームの編成がままならず、九月初めの全日本の合宿には半数の選手しか集まらなかったという事実である。

　負けたのは悔しいし、残念なのは選手、関係者ばかりかファンも同じだ。しかし負けたのならなぜ『今度こそ』という発奮が出てこないのだろうか。人間悔いがあるからこそ、その悔いを補うと努力し、それが進歩につながるのではないか。

　よく『悔いもなく戦ったから負けても満足』という話を聞く。最近では甲子園の高校生がよく言っていた。だが私はこの言葉が一番きらいだ。悔いもなく戦ったならなぜ勝てないのか。例え勝ったも負けたとしてもスケールの大小はあるにしろ、必ず悔いが残ると思うからだ。それは敗因をさぐれば当然出てくることだし、心のスキだって思いつくに違いない。運だって自分の努力で呼ぶことも出来るのだ。

　それがわかれば、それではこの次はどうすれば勝てるのか、どうやれば強くなるのか―を考えるのは当り前だろう。それが人間の知恵というものではないだろうか。

　ところがいまの日本女子ハンドボール界にはそれを考える意欲すらないと小耳にはさんだ。そしてその現れが合宿に半数の選手しか参加しなかったことだ、と、ふっと考えたのは早計だろうか。

　いま負けたからといっていつまでも涙していても始まらない。なぜなら、モスクワ・オリンピックまであと二年足らずしかないのだ日本協会が『モスクワ』の看板をはずしたのなら別だが、この危機を乗り切るために、早く再建策を考え出す必要がある。方法論はいろいろあると思う。その中のひとつを早く選んで、一刻も早く再建に立ち上がらねば、せっかく成長してきた日本の女子ハンドボール界はここで死んでしまう。堕落論を書いた坂口安吾流にいえば一度死んでしまった方がかえって新らしい生命が生まれてくる可能性が強い。ところがいま日本にはそんな時間的なゆとりはない。とにかく、『モスクワ』へ向って進まねばならないのだ。

チームドクターの配置を

　スポーツにケガはつきものだ。特に山岳などは死につながる危険性もあり、レスリング、柔道などは一生不具になるケースも多い。だからといってケガをおそれてスポーツをやめては始まらない。ケガしないような十分の準備と配慮の心がけがスポーツをやる人には必要だ。

　ところで前期の日本リーグの試合で湧永薬品の津川選手が、頭を床に強打し、救急車で運ばれる〝事故〟があった。大同特殊鋼と湧永薬品との試合での出来事だが、試合前から首位を争う両チームはエキサイト気味で、点差も競り合っていた。多少プレーも激しくなっていた矢先きの〝事故〟だった

　幸いケガは軽くすんだが、その後、後期の大阪での試合ではブラザーの山中選手、ムネカタの鈴木選手が負傷、また立石の桑原、日新製鋼の吹上選手もケガをし、さらに湧永の松本選手が眼を強打して、救急車で運ばれた。

　最近のリーグではレベルも均衡し、激しい試合が増えて〝事故〟が多くなっているが、ここでもう一度ケガに対する対策を考える必要がありそうだ。

　その対策のひとつにチームドクターの配置がある。いま日本リーグをはじめ、大学リーグなどの各チームはドクターがいない。コーチ（トレーナー）が応急処置などある程度は出来るが、津川選手の〝事故〟のように頭部を打ったときなどは手のほどこしようがない現在、各競技でもドクターを置いているところは少ないが、サッカーなどは日本リーグの各チームが皆ドクターを配置している。金銭的な余裕や、人ぐりがなかなか難しいこともあろうが、出来れば日本リーグの各チームは早くドクターを置くべきだろう。

　激しいプレーとラフプレーの違いもこれらの〝事故〟は示唆している。津川選手のときは偶然にも大同の選手の手が加速をつけて走ってくる津川選手に〝カウンター〟のかたちで当たってしまったもので、仕方のないケースだった。

　だが最近、激しさとラフを取りちがえて、〝反則のしどく〟みたいなプレーも見かける。審判の技術もあがり、厳しく判定することも多くなった。だが根本的にはやはり選手ひとりひとりの心がけ、そして監督の指導が要求される。

　そして最後が選手たちのケガに対する体作りである。科学的なトレーニングも大事だが、それ以上に選手たちの日常的なトレーニングこそもっと大切だ。

第30回全日本総合ハンドボール選手権大会要項

日本ハンドボール協会は、昭和53年度（一九七八年）国内チャンピオンチーム（男女）を定めるため、下記の要項で第30回全日本総合ハンドボール選手権大会を開催する。

一、**大会名**　第30回全日本総合ハンドボール選手権大会

二、**主　催**　日本ハンドボール協会(以下、日本協会という)

三、**主　管**　東京都ハンドボール協会

四、**後　援**　読売新聞社

五、**開催期日**　昭和54年1月17日(水)～21日(日)の5日間

六、**競技日程**　第1日　1月17日　男子1回戦8試合
第2日　18日　男子2回戦8試合
女子1回戦8試合
第3日　1月19日　男子準々決勝(4試合)
女子準々決勝(4試合)
第4日　1月20日　男子準決勝(2試合)
女子準決勝(2試合)
第5日　1月21日　男子決勝
女子決勝

七、**開催場所**　東京体育館（第1第2日は2面設置）

八、**参加チーム代表者会議**　男女に分け次のとおり行う。
(男子)1月16日(火)午後6時　東京岸記念体育会館（体協）会議室
(女子)1月17日(水)午後6時　東京体育館会議室
～前年度優勝チームの賞杯など返還を、この会議で行う。また、会議出席者は、当要項持参のこと～

九、**参加資格**　男子24チーム、女子16チームとする。

(イ)出場チーム数

	男	女
①「日本リーグ」昭和53年度在籍チーム	8	8
②全日本実業団連盟（日本リーグ在籍チームを除く）	3	3
③全日本教職員連盟（日本リーグ在籍チームを除く）	3	0
④全日本学生連盟	5	3
⑤全日本自衛隊連盟	1	0
⑥社会人代表	3	1
⑦開催地代表	1	1
計	24	16

※①社会人代表男子は東部（北海道・東北・関東）中部（北信越・東海・近畿）西部（中国・四国・九州）より各1チーム
②社会人代表女子は日本協会が国体出場チーム中より選手する。
③チーム選出は、上位チームより割当チーム数を報告すること。
④割当チーム数に満たぬ場合は、学連より補充する。

(ロ)出場選手は日本協会登録者でなければならない。またチームについては、次のように定める
①一般チームは、「日本協会A登録」であること。
②学生チームは、「日本協会登録」であること。

(ハ)日本協会加盟団体推薦のチームは、その構成を所属加盟団体の規定にしたがって行うこと。

十、**参加料**　1チーム二万円。

十一、**チーム編成**

(イ)監督1名、コーチ1名、マネジャー1名、選手15名の計18名とし、競技は選手12名（GK2 FP10）で行なう。

(ロ)申しこみ後のメンバー変更は認めない。

(ハ)監督・コーチ・マネジャーが選手を兼ねる場合は、選手登録しなければならない。

(ニ)背番号は、申しこみと同じものを使用しなければならない。（GKは1、12とし、3名の場合は16とし、15を欠とする。

(ホ)試合中の選手席には申しこみ書に記入された監督・コーチ・マネジャーのほか1名のチーム関係者（ノンプレイング）と、その試合に登録された12名の選手以外は入れない。
（チーム関係者の氏名は届け出る必要はない）

十二、**試合規定**
「日本ハンドボール協会昭和53年度競技規則」による。

十三、**競技方法**

(イ)男子は、24チームによる「トーナメント形式」で行う。

(ロ)女子は、16チームによる「トーナメント形式」で行う。

(ハ)男女とも3位決定戦は行わない。

(ニ)男女とも第2延長まで行う。第2延長終了後も同点の場合はペナルティ・スローコンテストで決める。

十四、**ユニホーム**
各チームは、少くとも色の異った2種類のユニホームを用意すること。

十五、**表彰**

(イ)男女とも1～3位に日本協会から表彰状（注・3位は準決勝の敗者2チームとする）を授与する。

(ロ)男女とも優勝チームの選手15名に優勝メダルを授与する。

(ハ)男女とも優勝チームに日本協会賞を授与する。

(ニ)男女とも優勝チームに読売新聞社賞を授与する。

十六、**審判員**
日本協会の指名する級公認審判員

十七、**使用球**
日本協会検定球

十八、**組み合わせ**

(イ)組み合せは、12月16日(土)午後2時・日本協会（東京）で、抽選によって行ない、ただちに各チームへ連絡する。

(ロ)男子トーナメントは、参加24チームのうち8チームが1回戦を不戦となる。参加チーム数が24以下となった場合は、この限りではない。不戦チームの決定は、抽選によらず、日本協会が行う。

(ハ)組み合せ決定後の棄権は、日本協会懲罰委員会の裁定をうける。

十九、**申しこみ**
大会申しこみは、申しこみ書2通を作成、その内1通に参加料を添えて、昭和53年12月12日(火)まで下記へ提出する。
（〒150）東京都渋谷区神南一―一―一
日本ハンドボール協会
電話〇三―四六七―七〇九七

（12頁へつづく）

モスクワオリンピック候補選手

―女　子―

女子ナショナル選手

No.		氏　名	年令	身長	所　属
1	FP	穂積美保子	23	168	(ビクター)
2	〃	加藤美起子	24	164	(〃)
3	〃	小島　和子	23	164	(〃)
4	〃	伊藤　珠美	19	160	(〃)
5	〃	染谷　保子	22	165	(〃)
6	〃	松下　仁美	23	163	(ジャスコ)
7	〃	河田　栄子	22	167	(〃)
8	〃	若田貴美子	20	161	(〃)
9	〃	鈴木　洋子	23	161	(〃)
10	〃	金田　孝子	23	156	(〃)
11	〃	紀野奈々美	22	166	(立石電機)
12	〃	橋ノ口フサ子	20	162	(〃)
13	GK	井村文光子	18	176	(〃)
14	FP	桑原　広子	19	163	(〃)
15	〃	中川しげみ	22	157	(ブラザー)
16	GK	山本　福代	23	164	(〃)
17	FP	山井マチ子	23	158	(日立栃木)
18	〃	吉田　良子	21	165	(〃)
19	〃	島田さゆり	20	172	(〃)
20	〃	千歩　康子	20	171	(北国銀行)
21	〃	清水みよ子	21	169	(ムネカタ)
22	〃	横山裕美子	21	159	(東京重機)

―男　子―

男子ナショナルメンバー (13名)

GK	福井　秀人	(25)	湧永薬品	180, 75
FP	穂積　豊彦	(26)	〃	180, 78
〃	津川　　昭	(26)	〃	180, 77
〃	池ノ上幸司	(22)	〃	185, 72
〃	生駒　靖夫	(22)	〃	184, 83
〃	蒲生　晴明	(24)	大同特殊鋼	192, 90
〃	柳川　　実	(24)	〃	175, 73
〃	中本　満明	(24)	〃	184, 81
〃	斉藤　幸司	(24)	大崎電気	174, 80
GK	井藤　英忠	(19)	日本体育大学	184, 70
FP	志賀　良弘	(22)	大阪体育大学	187, 90
〃	須波　雅人	(22)	筑波大学	184, 78
〃	斎藤将一郎	(25)	秋田教員	187, 89

ヤングナショナル候補選手

女子ヤングナショナル選手

No.		氏　名	年令	身長	所　属
1	FP	高橋千賀子	18	160	(ビクター)
2	〃	岩城　由江	19	161	(〃)
3	〃	辻本　典子	19	166	(ジャスコ)
4	〃	山本二三子	18	167	(〃)
5	GK	矢部登茂子	18	162	(〃)
6	FP	鐵田　典子	18	165	(立石電機)
7	〃	姫野五十鈴	19	153	(〃)
8	〃	則武美智子	19	167	(ブラザー)
9	〃	川村　豊子	19	164	(〃)
10	〃	山村　政子	18	159	(〃)
11	〃	水上　清美	19	166	(日立栃木)
12	〃	小野瀬智子	19	154	(〃)
13	〃	西　　典子	20	168	(大崎電気)
14	〃	石井美沙子	18	168	(〃)
15	〃	八木千津子	18	162	(北国銀行)
16	〃	寺西富美枝	19	169	(東京重機)
17	〃	植田　和子	19	155	(ブラザー)
18	〃	寺村かすみ	19	163	(ビクター)

男子ヤングナショナル候補選手名（案）13名

						cm	kg
1	大畑孝広	GK	日　大	21	静岡農高	183	
2	滝口孝之	FP	筑波大	21	弘前南高	184	75
3	西山　清	〃	〃	19	氷見高	181	76
4	阿部　伸	〃	早　大	19	盛岡高	190	81
5	北川　勉	〃	慶　大	20	慶応高	180	75
6	田口長雄	〃	中　大	19	笠間高	186	77左
7	辻本孝仁	〃	日体大	22	河南高	176	73左
8	松井幸嗣	〃	〃	21	荏原高	177	72
9	原田昭昌	GK	大崎電気	21	聖光学園	181	80
10	金井克志	FP	〃	18	川口工高	192	83
11	山本伸二	〃	湧永薬品	24	名城大	176	70
12	岡部　大	GK	大崎電気	23	明治大	182	74
13	関　健三	FP	三陽商会	23	中央大	180	76

全日本教職員ハンドボール連盟研修報告

高橋　健夫

去る八月八日全日本教職員ハンドボール選手権大会に先がけて、宮崎市民会館大会議室において表記の研修会が開催された。

研修会は山田計連盟会長の挨拶に続いて遠藤事務局長の司会で進行された。

昨年度盛会裡に終った研修会は本年度も研究担当の大西理事のさそいかけによって、全国各地区から7名の発表者を数えることができた。

本年度は昨年の反省から理事会で時間の大幅な余裕がみとめられたこともあり、研究発表の内容を指導分野と専門分野の二部に分け研修会をもつことにした。

以下研究発表の概略を記述したい。

第一部　指導分野

一、学校体育としてのハンドボール　千葉県　風間勝也氏

二、小学校のハンドボールについて　愛知県　角　紘照氏

三、ハンドボールのゲーム様相と指導法　東京都　平岡秀雄氏

四、ハンドボールのあり方（反則について）　埼玉県　野村敏美氏

第二部　専門分野

一、ハンドボールのシュートについて　茨城県　大西武三氏

二、ハンドボールのジャンプシュートのしかたについて　千葉県　河村英明氏

三、ハンドボール競技発展のための課題そのⅡ　ナショナルチームについて　大阪府　望月仲三郎氏

以上の7氏7件の研究が発表されたわけであるが、

第一部の発表で風間氏が、技能の発達にともなうゲーム展開の変化の予想と比較的上達者と未熟者を分ける差の要素を分析して、指導段階を5段階に分割指導した実践研究を披露した。

東京都の平岡氏は協会の普及部の一員として、ハンドボールテキスト（日本ハンドボール協会編）を用いた指導の実践研究を発表した。

はからずも前記の風間氏同様、展開されるゲーム様相を5段階に分類した指導法で、そこにあらわれたものが、具体的な事例が要領よくテキストにより発表されたもので、指導の経験の有無にかかわらず有効な内容といえる。

角氏は昨年に続いて小学校のハンドボール普及指導についての実践研究を発表したが、究極の問題点として次のようにその阻害点をあげた。

「小学生は指導者の影響を非常に受けやすい。現在行われているように、つかんだり、押したりなど相手を阻止することが半ば容認されているゲームの中から、良き指導者が育ちにくいといえよう。

また、そのような行為が正しい技術だと考え違いをしている指導者に育てられた子どもたちは不幸だといわなければならない。我々指導者は、ハンドボールを教えるより、ハンドボールで子どもらに何をつかませるかを自問する必要があろう。

中略

そして、今ハンドボールが子どもの心身を鍛えるのに最適なスポーツとして認められるか否かの瀬戸際であると感じている。」

と、切実な問題を問いかけた。

埼玉県の野村氏は、大学リーグ戦の反則スコアーによるハンドボールゲームの考察を行ったもので問題点を次のようにあげた。

・反則することが試合に勝つために、マイナスにならないので、勝つための反則をすることが必要とさえなっている。よって反則に対して、特に粗暴な反則に対しては現状より厳しく、直接得点にかかわる罰則が必要なのではないだろうか。

と、角氏の提言を裏づけるような大学リーグの実態をこまかい数値によって発表された。

第二部では、先づ茨城県の大西氏が、シュートにおけるスピードについてと題して、

①　シュートスピードが反応動作に与える影響

②　シュートにおける「しなり」とその返しについて

の2課題を筑波大学学生のシュートフォームを3名の選手の分析写真を1/53秒という速度によって研究されたもので、手の大きさとそりの関係、また縦しなり、と横しなりの2フォームから繰り出されるシュートの特長を実際場面に有効に使えるような指導を発表した。

つぎに千葉県河村氏は「ジャンプシュートの男女の比較」と題して、男13、女14の被験者によってノーマル、クィック、セーブの三種類の滞空時間の統計、ジャンプを腰、ボールの高さ、移動距離の三方面の関係とボールスピードについて更に、ふみ込み足の姿勢を足首の角度、ひざの角度の両面からの資料を発表した。三者の関連から考察すれば、個性のある指導資料となるであろう。

最後の大阪府望月氏は、昨年につづいて、ハンドボール競技発展のための課題についての研究発表であったが、中学時代の動機づけの問題点、大阪府におけるハンドボール連盟の問題点を冒頭にあげ〃体力的に恵まれた素材が少ない点、技術や戦術的に走りすぎている点、勝つための指導はあっても選手の将来性にかけるトレーニングに手を抜いているのではないか〃と高校教師、指導者に手きびしい反省点をあげ、むすびとして、ハンドボール競技者適性テスト開発の提案、さらに自己の体験指導より科学的トレーニングの提唱がなされ、会場から惜みない拍手をあびた。

本年度は、大会一日目の試合数が少なく、多くのチームは代表者のみの参加で昨年に比し参加者は少なかったが、時間的な余裕もあり、熱心な質疑応答が行なわれた

なお連盟では僅少な予算の中からこの研究発表の内容を主とした研究紀要を編集することにして、第一集が発行できる運びとなった

また、諸事情によって発表会に出られない会員のために、紀要による研究発表を今回より、二回に分けて掲載して、ハンドボールを愛好される本誌をご覧の皆様方にもハンドボール競技そのものの深さをお考え頂きたいと思います。

全日本教職員ハンドボール連盟研究・紀要………（上）

紀要の発刊にあたって

全日本教職員ハンドボール連盟
会計　山田　計

このたび全日本教職員ハンドボール連盟の研究紀要が発刊されることになりました。

連盟をあずかる立場として、会員の皆様と御同慶にたえません。

しかも時あたかも日本ハンドボール協会の40周年の記念すべき年であり、わが全日本教職員連盟の主行事の一つである教職員ハンドボール選手権大会の第20回を開催した記念すべき年でもあったわけです。

教職員連盟は、日本ハンドボール協会傘下に数えられる幾多の連盟の中で、ハンドボールの指導と実践の両面をすべての会員がもつという特色のある連盟であることは衆知のとおりであります。

顧りみますると、指導者のハンドボール技術の研鑚の場として開催された教職員ハンドボール選手権大会を母体に、技術交流について単なる選手権大会と異なる試合方式をとり入れたり、協会技術部の講師を招聘して、ハンドボールの科学的研究発表をおねがいしたりし、あらゆる試行錯誤を繰過し紆余曲折の末連盟成立をみるに至ったわけであります。

連盟の発足を機にこの進歩の急速さは目をみはるものがありますナショナルチームの監督、コーチを初め、プレーヤーとしても数多く選出され、頂点は世界に通じ底辺は地道な、大学、高校、中学更には小学校にまで指導普及を努め、その例は枚挙にいとまないという言葉に適中し、成果は、現在の日本ハンドボール界を背負っているとさえ自負しております。

さらに一方、技術研鑚に日進月歩、過去の技術の踏襲にとどまらず、科学的裏付をもった技術の開拓に目覚ましいものを数えております。

この会員のもつ情熱が、汗水ながし、勝敗を競い合う選手権大会に併行して、研究発表会が維持できるゆえんではないかと思って居ります。

ここにまとめました論文は一九七七年第20回選手権大会の研究発表会に発表されたすべてですが、内容には舌たらずな面があるかもしれません。しかし、日頃の技術指導の裏付けとして積みかさねられた貴重な累積であり、必ずや各方面の評価をいただけるものと信じております。

発刊を記念して、この第一号をステップとして、益々名実ともに充実させてゆく努力を会員ともどもお約束して擱筆させていただきます。

昭和五三年五月一日

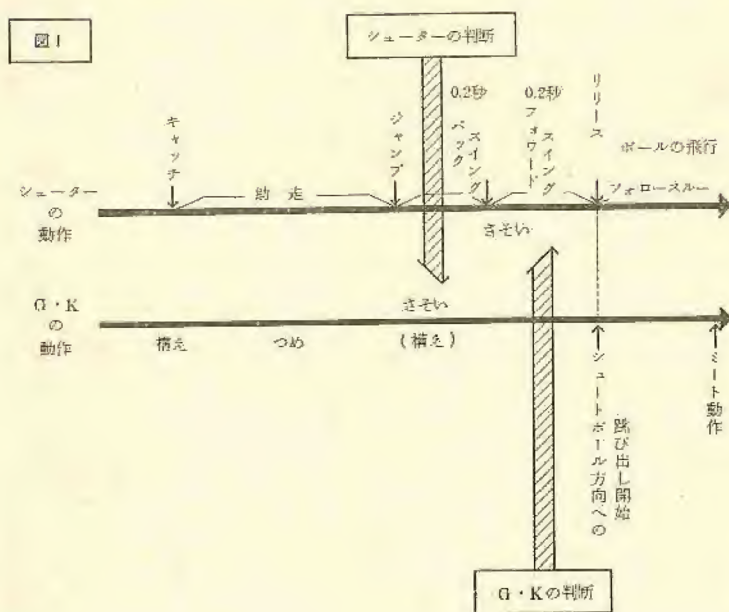
シュートの技術について

茨城　大西　武三

シュートは、ゴールキーパーやディフェンスのいる状況の中で行なわれるものであり、対応技術とよばれるものである。筆者は、従来ゴールキーパー（以下G・K）の技術をシューターとの関係において研究してきたが、G・Kの技術は裏をかえせばシューターの技術でもあります。今回はG・Kとの関連からみたシュートの技術を心理的な面から把えようと試みた対応技術は、相手と時間的空間的かけ引きの中で行なわれるものであり、技術的要因を心理的な側面からみれば、相手が何をいつどこへやってくるかというようなことを判断することと、相手に自己のプレーの状況を判断させせないようにすることが重要になってくる。相手の状況を刻々読みつつ相手に誤った状報あるいは読みにくい情報を与えるという「読み」と「読ませ」を同時に行なうことが重要となるわけである。シュートにいくらスピードがあっても、その動作からシュートボールの方向やタイミングが容易に読むことができるなら、シュートは成功するものではない。ここでは、シューターのG・Kとの判断の時機にスポットをあて、シュートの技術を心理的にとらえてみることにした。

一、シューターとG・Kの対応図

図1は、ロングシュートに対するG・Kのシュート阻止動作の対応図である。シュートの距離や、一回一回のシュートによって対応の時間的なものは異なるが、ロングシュートの場合、シューターの手からボールが離れる瞬間に合わせてG・Kのシュートボール方向への跳び出しの動作は始まる。シューターの手から離れる時機（リ



リース）を0とすれば、±〇・〇五秒の間に跳び出しの動作はほとんど始まる。シュートの動作の時間的な面は、クイックシュートやセーブシュートの場合によって異るが、ノーマルなシュートの場合は、バックスイング、フォワードスイングとも約〇・二秒である。

二、判断の時機

シューターやG・Kの判断には方向やタイミング、動作の選択などいろいろなものが含まれ、時間の経過に従って継続的に又刻一刻となされるものであるが、ここで問題とする判断の時機とは、最終的な判断の時機を言っている。シューターは、助走をしながら相手の状況を読み、シュート動作の仕方や方向、タイミングを決定してシュートをすることが、シュートボールを投げ込む直前の判断の時機のことである。G・Kも同様に投げられたシュートボールに対してミートするために全力の動作でシュート方向へ跳び出すが、その跳び出しの判断の時機である。判断の時機はいつであるかを推定することは大変困難なことであるがシューターの場合、シュート動作が、全力動作の時間的に非常に短かい中でなされるものであり、しかも方向性をもっていることを考えると投げの動作を開始してからでは、判断することは困難であることがうかがわれる。土井秀和、大西武三等を共同研究者とする実験では、フルスイングのシュートの場合（バックスイングから全力で行なうシュート）、フォワードスイングの〇・一秒前までに判断が行なわれ、ためるシュートの場合はフォワードスイングの始まる〇〇・五秒前までである。図1の判断の時機は、フルスイングで行なわれる場合である。

G・K側の判断の時機も同様に考えて推定してみると、シュート方向へ全力の跳び出し動作の始まった瞬間から、少くとも反応時間分もどった時機であると推定される。ではどれだけもどればよいかは、大変困難な問題であるが、G・Kの動作の開始時機がフイルム上から求められたものであることを考え合わせて、ここでは〇・一秒として図1に記入してみた。

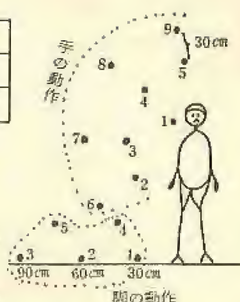
三、シューターやG・Kの判断は予測である

シューターが、シュートを打とうとする直前のG・Kの動作は、つめている状態か構えている状態である。シューターの最終判断の時機にG・Kが、シュート方向に跳び出していることは、あり得ない。あり得るとすれば、シュートが、非常に近くて先に完全にヤマをはって動いていなければ間に合わない場合とか、跳び出すタイミングをG・Kが誤って先に動いてしまったという場合である。シューターが、どこにシュートしようかと最終的に判断しようとしている時にG・Kが先に跳び出しているということは、ほとんどない。シューターは、構えている時機あるいはつめている時機、あるいは、跳び出そうとしている直前のG・Kの姿勢を見て、どこを打て

表1　手の動作時間

	1	2	3	4	5
$\bar{X}$	0.18	0.07	0.18	0.20	0.20
S・D	0.007	0.005	0.005	0.003	0.008
	6	7	8	9	
$\bar{X}$	0.12	0.21	0.24	0.23	
S・D	0.007	0.008	0.011	0.014	

各動作とも10個の平均　　（単位：秒）



足の動作時間　（単位:秒）N.10

	1	2	3	4	5
$\bar{X}$	0.16	0.21	0.31	0.19	0.22
S・D	0.005	0.011	0.015	0.007	0.008

表2　判断の時機　　中村弘司資料

シュートのタイプ	ゴールイン		ノーゴール		全体	
	N	$\bar{X}$	N	$\bar{X}$	N	$\bar{X}$
ロングシュート	11	→ 0.0815	26	→ 0.061	37	→ 0.067
ミドルシュート	3	← 0.075	6	→ 0.018	9	← 0.013
ペナルティスロー	11	← 0.056	6	← 0.071	17	← 0.061
速攻におけるシュート	11	← 0.016	1	← 0.153	12	← 0.151
ポストシュート	8	← 0.137	2	← 0.121	10	← 0.134
サイドシュート	7	← 0.179	8	← 0.575	15	← 0.114

注：→0.0815　フォワードスイング開始後　0.0815秒
　←0.075　　〃　　前　0.075 秒

ばよいのかを最終的に判断するのが一般的である。だからシューターの判断は予測であるといえる。
　G・Kは、ロングシュートの場合、シューターのリリースの時機に跳び出しが集中することから、項目3で求めたように、判断の時機は、バックスイングが終わりフォワードスイングが始まった瞬間くらいである。ペナルティスローに対する跳び出しの時機は、約〇・〇五秒ほど全体的にまえにずれる。この時機のシューターの動作は、ボールが離れる前の動作であり完全に方向が判断できる情報ではないと言える。だからG・Kの判断も予測であると言える。

四、「さそい」「かけひき」について

　シューターやG・Kの判断は予測であるということから、予測の情報となる動作に予測を誤まらせる情報をもり込むことが、技術的に必要な要素となることは明白である。相手の動作を読むだけでなく同時に相手に誤まった読みをさせることが対応動作として必要なこととなり、この部分に対反動作の特徴である「さそい」や「かけひき」の心理的な技術が要求されることになる。対応動作は、同時限においてお互いに「さそい」や「かけひき」が行なわれるものであり、心理的にはだまし合いの世界といってよい。
　「さそい」や「かけひき」は、一方的にできるものではなく、相手の心理面をよく読み又、タイミング的な面もよく考慮しないと効を奏しない。G・Kがシューターをさそう際にシューターにそれを読まれて逆をつかれることになるシューターの決断（判断）の時機に丁度合わせてさそいをかけ、シューターがそれを見てさそいであることに気がつかず、つい乗ってしまうといったタイミングでなければならない。
　シューターも同様である。タイミングや方向を読まれないようにフォワードスイングに至る動作をできるだけカムフラージュしなければならない。G・Kは、一瞬にして終了するスローイング動作からボールの方向を予測しなければならない。できるだけ長く見て判断したくても限度があり、ロングシュートの場合でも、普通のスピードボールなら、フォワードスイングが始まる頃には、判断して動かなければならない。シューターで「さそい」をかけるとすれば、ここに至る動作までであり、バックスイングからフォワードスイングの始まるまでである。

五、シュートの技術

　以上のようにシュートにおける対応場面は、予測と予測のぶつかり合いであり、そのことから、心理面に着目したシュート技術が必要なことになってくる。シュートに必要な技術的要素を次にあげてみると

(1)　スピード……G・Kに予測させる時機を早くさせることができる。予測は早い時機に行なうほど不正確である。

(2)　G・Kの読み
　構えやつめの状態から、G・Kはどこにも動きやすいのか又さそっているのかどうかの読みは心理的技術として重要である

(3)　G・Kに方向やタイミングを読まれない。

(イ)　同じフォームから上下左右うちわける

(ロ)　方向のとらえにくいフォーム
　柔らかい肩としなる動作によってボールが身体に隠されている投法など。

(ハ)　フォワードスイングに至るまでの顔や目の方向
　シュート方向の決定が、顔や目の方向となって現われることが多い。

(ニ)　方向性のある動作でフォワードスイングまで行ないリリース時において、手首で逆の方向にシュートする。

(ホ)　クイックとためるシュートの活用
　タイミングと方向をはずすことができれば、シュートは完璧といえる。ジャンプシュートの場合、早く打つクイックシュートとためるシュートの間の時間的容量が大きいほどタイミングをはずす力は可能性として大きいと言える。

(ヘ)　隠れてシュートする
　ディフェンスに隠れてシュートをすれば、方向やタイミングを判断する予測の情報を得られないことになり、シュート阻止のための動作は不可能となる。

（筑波大学）

ハンドボールのありかた

埼玉　北野　晴次

　ハンドボール指導者に「自分の子供にハンドボールをやらせますか」と質問してみると「とんでもない」と答える人や考え込む人が多く、即座に「やらせる」と答える人は非常に少ない。このことは現状のハンドボールというものに自分の子供にはやらせられない何かが潜んでいることを現わしていると思われる。親子でスポーツに親しむ傾向の多い現代において、ハンドボールにそのような面があることは、悲しむべき事態である
　最近、指導要領の改訂に際してハンドボールが除外される寸前にあったことは、耳新しい話である幸い外されずに済んだことはハン

ドボール関係者としては、大変喜ばしいことである。指導要領に入るのは、ハンドボール競技が、教材として教育的価値があるからである。ハンドボールの教育的価値は、種々挙げられるが、ハンドボールが教材として取りあげられるのは、ハンドボール競技自体が、教育的現場にふさわしいものであるからである。ハンドボール競技をならしめているものはルールであるから、ルールが尊重されるということが、現場では前提とならなければならない。このルールを尊重するという立場から、現状のハンドボールを考えてみると公式戦等では、必ずしも尊重されていないのではないかと思われる。初めて公式戦を見に行った一般の生徒の感想を聞いてみると「おもしろかった」という反面「わからない」という答えも返ってくる。「わからない」というのは、身体の接触に関するルールのことであるハンドボールは、押したりつかんだりしてはいけないことをよく知っており、この点に関しては、素人の目は非常に厳しいものを持っている。ハンドボール指導者は、体育の授業時とクラブのハンドボールを同じ考えでやっているだろうか。私自身では違っている。ハンドボールの一般の世界では、授業においては、「反則はするな」という教育的見地から指導が行なわれ、放課後のクラブでは、同じ指導者の口から「押さえろ」「つかまえろ」という反則の奨励になる。ここが問題となるところで所属においては、技術指導から遠ざかり、勝つためには非教育的にならざるを得ないのではないか。素人の先生が、初めてハンドボールのチームを作り、教科書通りのハンドボールを教えて試合に出ると見るも無残な負け方で「ハンドボールは反則をしてもいいのですね」という声がかえってくる。また、ハンドボールをこのように捉えている先生もいる。「うちの選手は、相撲をさせて一番強いのを連れて来たから大丈夫ですよ」。

ハンドボールが教材としては、非常に素晴しいものを持っていることは、他の競技を行なっている人から認められているところである。しかし、ルールブックから推察されるハンドボールと現実のハンドボールには、身体接触において大変な違いがあり、その点が第三者から見れば、理解できないところであり、ハンドボール関係者にとっては、自己矛盾に悩むところである。スポーツは技術の優劣によって勝敗が競われるべきであり、反則の仕方が技術の重要部分をしめるようでは、そのスポーツは発展性があり得ない。体育の授業と競技スポーツの間には、その考え方において差はあるかもしれないが、授業のハンドボールも、技術的な面においては、最高のレベルで行なわれている競技の技術につながる一過程にならなければならないと考える。しかし現実的にはこの点においてギャップがあり、私としては、このギャップをどう埋めてよいかわかりません。このことについて結論づけることは困難ですが、このように考えることが、ハンドボールにとってマイナスではないことは確かであり皆さんにも一度この問題について考えて頂きたく思います。

（埼玉県立浦和西高等学校）

ハンドボール選手の有酸素的パワー　≪資料≫

大阪　山　崎　　武

ハンドボール競技は比較的広いコート内で一試合（30分×30分）を要し，その間かなり激しい動きを要求する。したがって，持久的能力，即ち有酸素的パワーが重要な体力的要素として要求される。そこで本研究では有酸素的パワーの具体的指標である最大酸素摂取量を測定し，文献にみられる他競技種目との比較を試みようとした。

＜方　法＞

1. 被験者：O体育大学の男子ハンドボール部員17名（19～21才）で彼らの特徴は表1に示したとおりである。
2. 最大酸素摂取量の測定：運動負荷はトレッドミル走によるものとした。即ちトレッドミルを上傾に固定し，スピードを160m/mn から開始して被験者が疲労困憊に達するまで毎分10 m/mnずつ漸増する方法である。疲労困憊に至ると予想される時点より数分前から1分毎の呼気ガスをダグラスバック法によって採取し，採気量（STPD）を乾式ガスメーターにより計量。サンプルガスを労研式ガス分析（O_2分量%）して酸素摂取量（STPD）を算した。これらSTPDの中から最大値を最大酸素摂取量（$\dot{V}O_2max$）とした。なお参考資料としてトレッドミル走行中の心電図（胸部双極誘導法）から心拍数を，呼吸曲線描記（サミスター法）から呼吸数を得た。さらに運動直後に正肘皮静脈より5cc採血し酵素法によって乳酸濃度を分析した。

＜結 果 と 考 察＞

表2に測定成績を一括して示した。運動終末時の心拍数は178～206拍／分（平均190拍／分）呼吸数は43.5～73回／分（平均52回／分）に発し，運動後の血中乳酸濃度は131.6～183.4（平均163.5）*ml／dl* を示した。これら指標の上昇水準は $\dot{V}O_2max$ を決定するに必要な負荷条件が十分であったことを示唆するものである[1]。ハンドボール選手の $\dot{V}O_2max$は3.12～4.36 *ℓ*／mn の範囲にあり平均 3.88*ℓ*／mnであった。この値は体重ないし筋肉量に概に比例することが知られているので[1]，体重当り酸素摂取量（$\dot{V}O_2max$／w）によった方が持久性能力のより妥当な指標になる。

表2にその値を示したが，さらに$\dot{V}O_2max$および体重との関係を示す為に図1を作成した。即ち斜線で示された$\dot{V}O_2max$／wからみて，ハンドボール選手の値は 50～70／kg･mn の範囲（●印）にあることは明らかであり，その平均値は 59.3m*l*／kg･mn（◉印）であった。ローマ字記号を付した値は黒田ら[2]（1968）によるものでMはマラソン選手，Sはスキー選手，Sw は水泳選手のもので，いずれも国内一流の選手の平均値である。即ち本測定に於けるハン

表1　被験者の特徴

被験者	体重(kg)	身長(cm)	年令(才)	ハンドボール歴(年)
T. I.	60.70	165.0	19	7
O. T.	61.10	169.0	19	4
S. A.	69.35	170.0	20	7
Y. N.	72.00	180.0	20	5
Y. M.	71.25	187.0	20	8
H. S.	61.70	167.0	20	5
K. M.	61.88	165.0	21	6
K. N.	74.90	175.0	20	8
T. K.	62.50	172.0	20	2
N. Y.	67.45	170.0	21	6
N. I.	66.05	170.0	21	6
J. H.	64.75	177.0	21	6
S. I.	68.15	171.0	21	8
K. S.	65.70	170.0	21	6
K. N.	59.55	168.0	21	6
N. F.	71.44	173.0	21	6
S. K.	56.15	168.0	19	7
$\overline{X}$	65.57	171.59	20.3	6.06

表2　被験者の各測定項目

Subj	Vo_2max l/min	Vo_2max/w ml/kgmin	VEmax l/min	H.R beats/min	R.R breaths/min	L.A mg/dl	all-out time min
T.I.	3.26	53.7	118.0	178.0	52.0	138.0	6'00"
O.T.	3.74	61.3	132.1	195.0	57.0	163.1	7'00"
S.A.	4.17	60.1	159.7	195.0	65.0	180.7	5'08"
Y.N.	4.03	56.0	168.7	184.0	66.0	143.0	5'45"
Y.M.	3.55	49.8	163.1	191.0	65.0	168.3	6'00"
H.S.	4.08	64.7	135.9	184.0	54.0	154.3	6'30"
K.M.	3.12	50.4	147.4	185.0	51.0	148.0	6'30"
K.N	3.88	51.8	127.0	206.0	73.0	173.3	5'52"
T.K.	3.61	57.8	149.9	187.5	47.0	183.4	6'20"
N.Y.	4.05	60.0	128.0	191.0	43.5	183.4	7'12"
N.I.	4.17	63.1	137.7	195.0	58.0	178.3	7'00"
J.H.	4.11	63.5	139.4	200.0	66.0	178.2	5'30"
S.I.	4.05	59.4	149.9	192.5	61.0	163.1	6'00"
K.S.	4.15	63.2	132.4	188.0	53.0	131.6	6'00"
K.N.	4.12	69.2	138.2	204.0	61.0	180.9	6'58"
N.F.	4.36	60.9	138.9	188.0	64.0	———	7'15"
S.K.	3.45	61.5	121.0	179.0	67.0	———	7'00"
$\overline{X}$	3.88	59.3	140.4	190.1	52.0	163.5	6'21"
S.D.	0.36	5.5	14.4	7.6	12.0	17.8	'38"

（注）　各記号はVo_2max（最大酸素摂取量），Vo_2max/w（体重当り最大酸素摂取量），VEmax（最大換気量），H.R（心拍数），R.R（呼吸数），L.A（血中乳酸濃度）all-out time（持久時間）である。

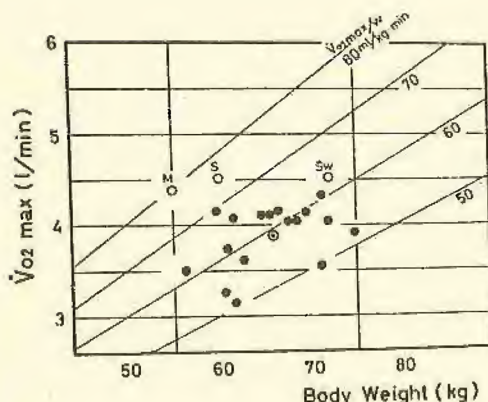


図1　ハンドボール選手の$\dot{V}O_2$ maxと$\dot{V}O_2$ max/wの関係（●印，⊙は平均）ローマ字記号は黒田ら(1968)による資料から引用：M；マラソン，S；スキー，Sw；水泳の国内一流選手の平均

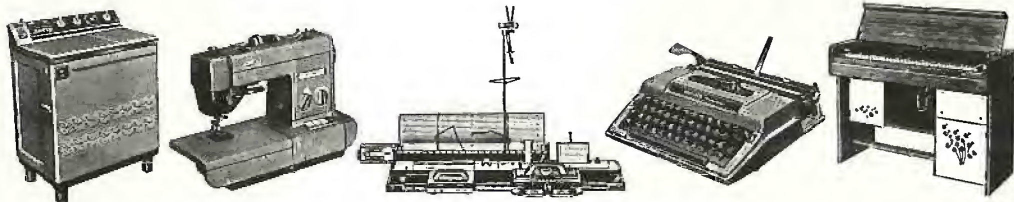
（金子作図）

ドボール選手の$\dot{V}O_2max$／wはマラソンやスキーの一流選手より平均で10～20ml／kg·mn低いが，水泳選手とは殆んど変わらない。他の競技種目については，山地の報告[3)] (1975)があるが，それは自転車エルゴメーターの負荷条件下で測定されたものであるから直接比較するには無理があるが，なぜならトレッドミル負荷の方が，自転車エルゴメーター負荷より10～15 %の高い値[4)]をもたすからである。そこでこの差（%）を考慮して他種目との比較を試みると，ハンドボール選手の値$\dot{V}O_2max$／w は陸上競技（中・長距離），スキー選手より低いがバスケット，バレー，ラグビー，剣道，柔道，レスリング，体操他の種目よりいずれも高い値を示しているしかしながら Saltin[5)] ら　(1967) の報告したスウェーデンの一流選手の測定値と照合すると，そこに報告された21種目の中で本測定のハンドボール選手の値は17位となり，最上位のスキー（長距離）選手，長距離選手（約 80ml）との間には，約20ml／kg·mnの差がある。

〔引用文献〕

1)　Åstrand, P—O. and K. Rodahl : Textbook of Work Physiology. 1970
2)　黒田，加賀谷，塚越，雨宮，大田，酒井：日本人一流競技選手の最大酸素摂取量，体協スポ研報告書．1968
3)　山地啓司：各種運動選手の呼吸循環機能について．1975
4)　金子，豊田：持久性運動処法の負荷設定について，体育の科学(25)5．326～330，1975
5)　Saltin B. and P—O. Åstrand : Maximum oxygen uptake in athletes. J. Appl. Physiol. 23, 1967.





日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一六七号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
昭和[illegible]九月二十五日印刷　昭和五三年十月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷[illegible]一―一―一
電話　代表（467）七〇九七
振替　東京　六―五八三四八番
編集兼発行人　荒川清美
定価　三百五十円
（年間購読料三千三百円）